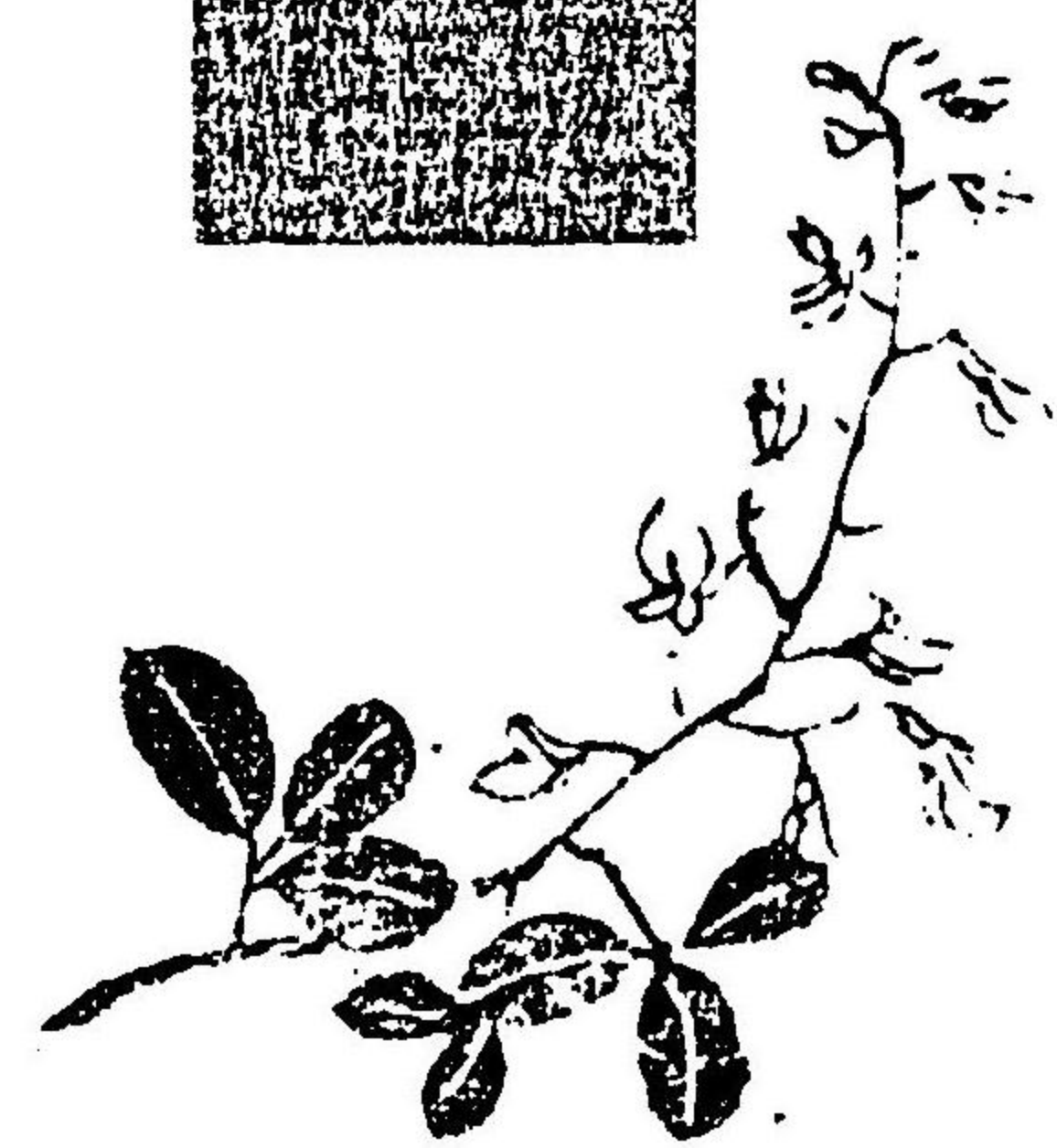


67
7
172

新編阿音圖

一



八江款名所圖画二之卷

目錄夏之部上

倉江歸枕

同古圖

同新圖

鏡江秋月

觀音院

玉江秋月

同古畵

同新圖

玉江大河之

圖

五鬼權現社

天狗拍子之畵

梅屋敷之圖

光山寺

楞嚴菴

晒場之圖

金輪寺

高影山

櫻江暮雪

同古圖

同新圖

同渡場之畵

大照院

同總畵

高月院

清心院

道樹院

崇觀音堂之畵



1634/157



藏書

小松江晚鐘 同古岳 同新図 古川筋

西法寺 椿八幡宮 同圖

長門の守へ白雉を献する圖 永福寺

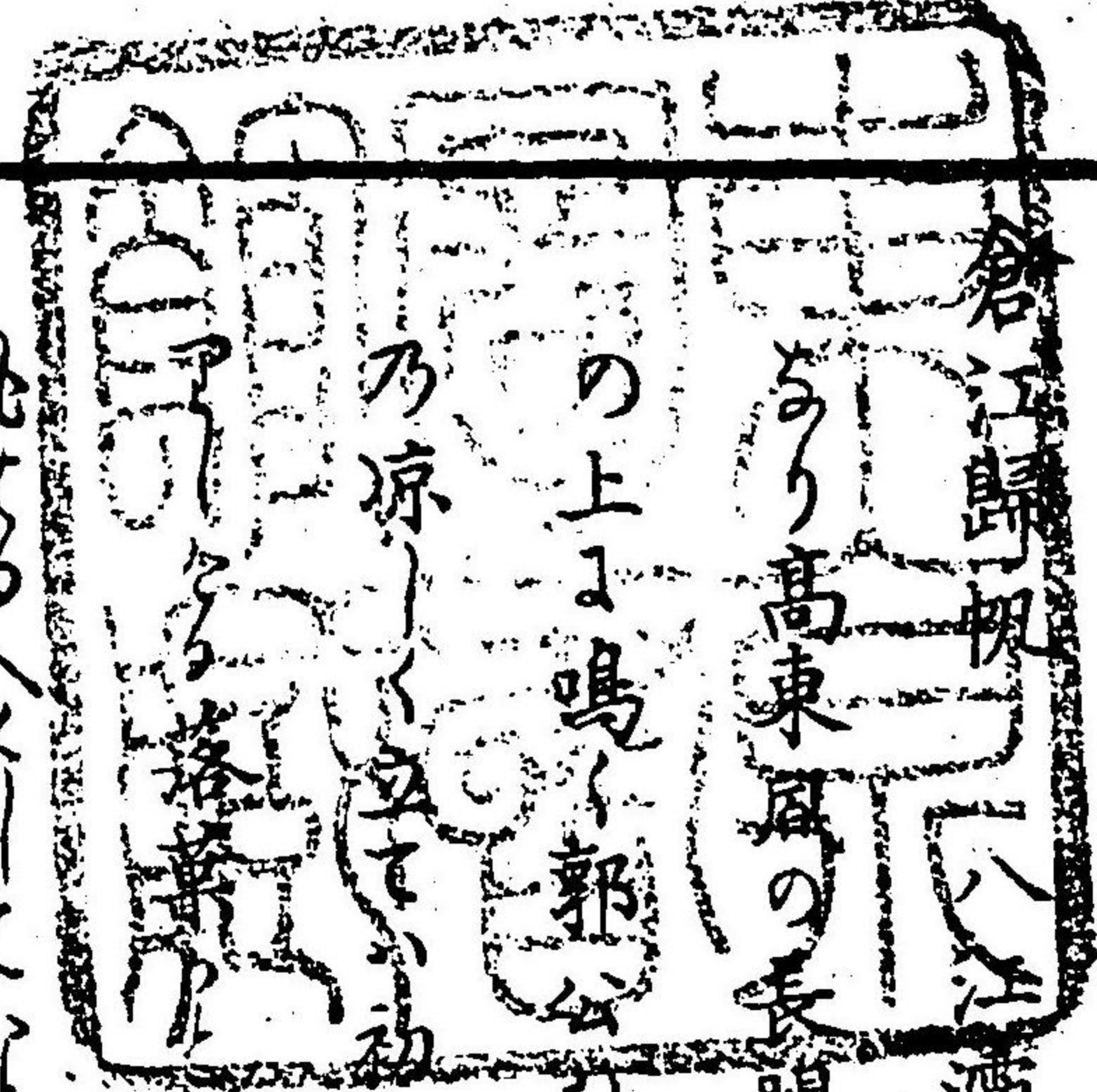
西福寺 福昌寺 茶臼山

以上目録參拾九條

八江菽名所圖画二之卷

夏之部上

木梨恒充 著述
山縣篤藏 補正



倉江歸帆 八江潮城八勝の一よりて眺望殊に壯豁の地
あり高東風の長閑に吹出れ、島根に波の花をちりし雲
の上より鳴る郭公の夕やみ早くすたておとひをのこし金風
乃涼しく立ち、初汐は磯への松をあふり行帰る釣舟はち
まうい漕よする大舶の帆は雪ともれ
もころへくいでいしあねさうめなりとるを四方の風
流士ときさるはいて是を賞翫せぬいあ

地挹遠天三面開水漫數島一帆四倉江風熱潮生駛
疑是仙槎銀漢來
原欽

をさるや浪もひらつとみくらるるをよりむてゆめゆめ春貞

因に云昔此地ハ沖城山の尾今の鼻のりのおまを繞り流のわすひちりこ
よていとらよつときくらりの法といふ大河とありぬ是ハ吉川家より
よへのは地走の堀をせられらりとを

鏡江秋月 いみへ八重萩八景の一として玉江川尻の所

ありといふ

潮音山觀音院 玉江浦町の中程にあり臨家の禪刹なり

て洞春寺の派中より本尊釋迦如來ハ金銅佛の唐作とい

三

ふ開山不見別當の草建よて大同年間なりといひ傳ふ
就中破壊して久しく絶えたるを永祿年中一傳得公座元
和尚これを再建す是則中興なり

觀音堂 本堂の右にあり本尊觀世音ハ市中七觀音の内第一番とす縁起
よ日むく一當所の浦人漁りせんと沖よ出て網を入よ忽ち浪

さとき舟をとりて海底より瑞光現されたりこそ奇怪なりとて網を引揚
るれハ金銅觀音の靈像を得たり即て家よかりつとらよはよりを
語りたれハ村長等奇特のくさるりとて則
當所よ草舎をいれし信心怠くはと云

玉江秋月 八江萩八勝の一として殊よ葉月の比ハ詞人

吟客よよ羣游して月を賞翫ふ陸より行りのあれを

舟よ乗り出る人あり清風徐よ吹き来て漣波岸を濯ふ

倉江歸帆古圖

地挹速天三面開
水漫數島一帆回
倉江風熟潮生駛
疑是仙槎銀漢來

原欽



三

蘇東坡詩

春風吹綠柳

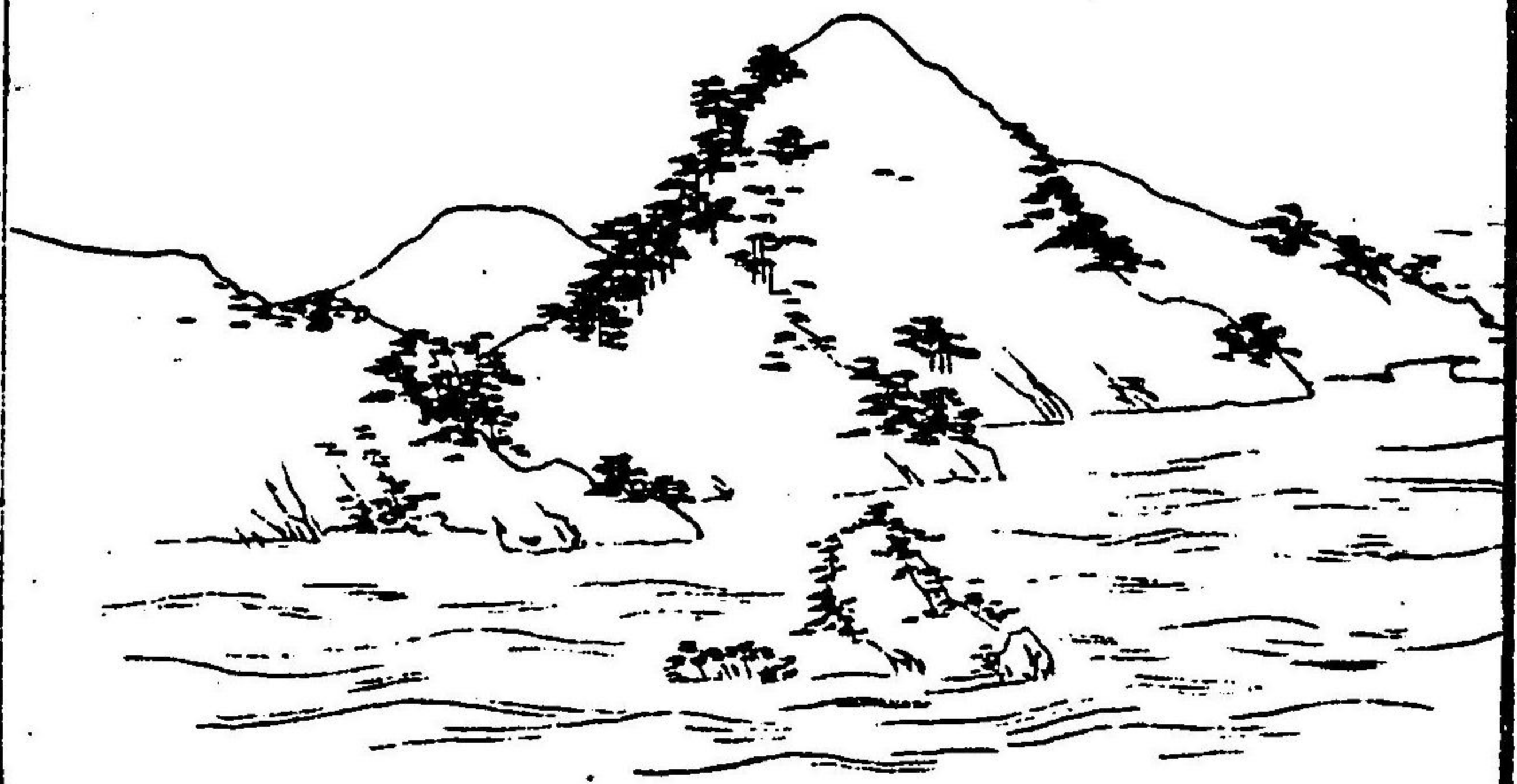
燕子剪輕盈

處處芳菲發

正是踏青時

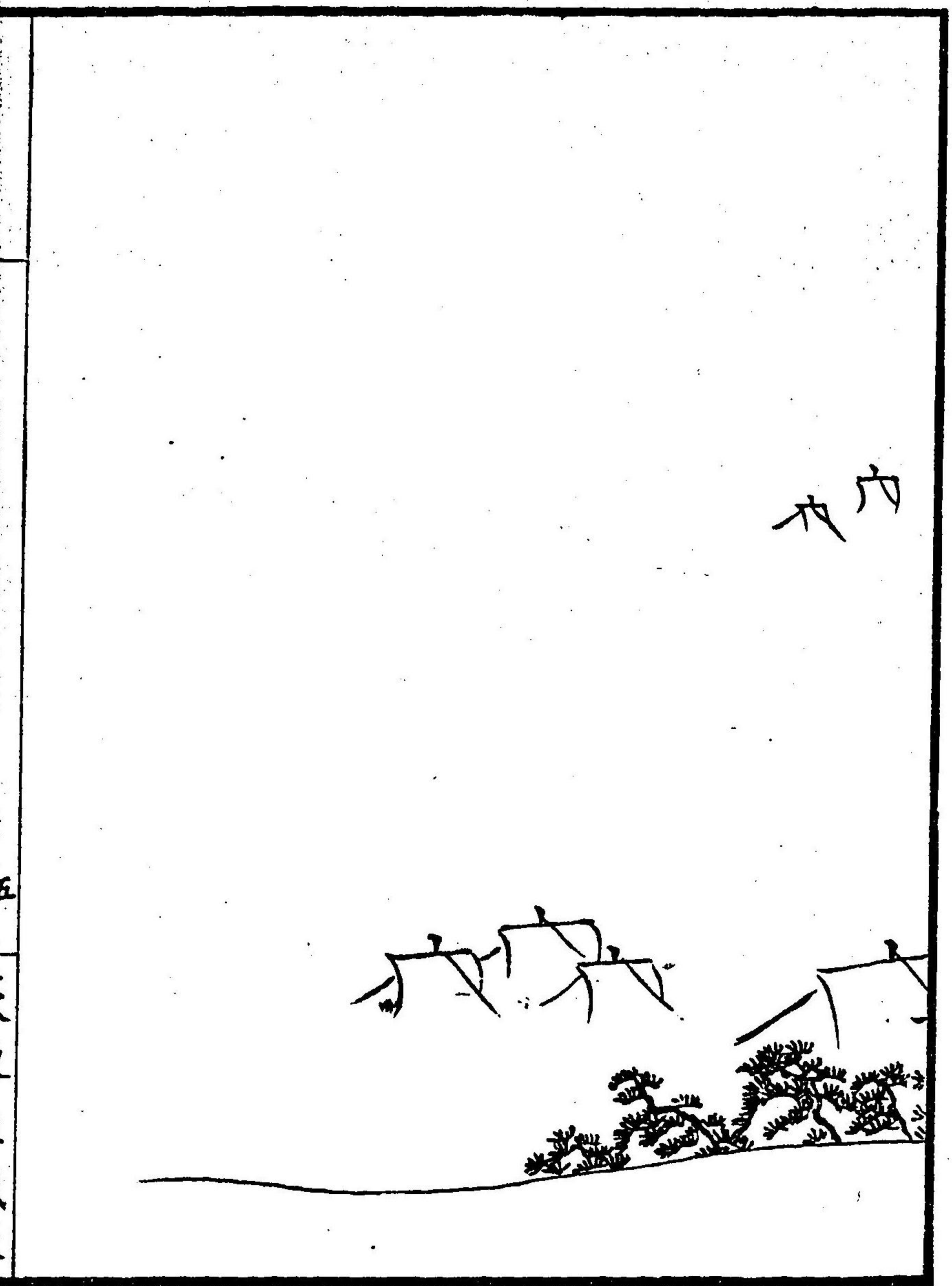
如錦似羅衣

春景



四
蘇東坡詩

五
上
大
西
三
三
歲
辰
辰



乃乃

三



三
林
圖
三

三
林
圖
三

月ハるるく尾の上ニ澄乃ちりて青海原空もひくつる白
露と水光と桂の權蘭の葉おのろりく上り下り飄々と
して世の塵を遁れ渺々として憂き懐を遣る詩歌管絃は
さびしくあるハ催馬樂筑紫風あるハ鄙風みやこつくとされ
たことよみて秋の夜は永きもおのろり月の入山ハひびきよ
はく杯盤狼藉もてに東方の白うもろりさうさうされハ幽雅の
輩此里よりありては境は遊ハさうめや
當所をいへハ玉井といふ
慶安萩画圖よりとる
今のハ江萩よりとるより
井を江よかくとるより

玉江一片秋 明月入清流

夜静人回首 漁村烟霧収 原欽

ほのろりゆかけさへふむをみくくさうりの秋の夜は月春貞

五鬼權現社 同所浦町より二三丁を隔て南よりあり二三丁は

うりの石壇を乃ちりて山の中腹よりあり号けて權現山といふ

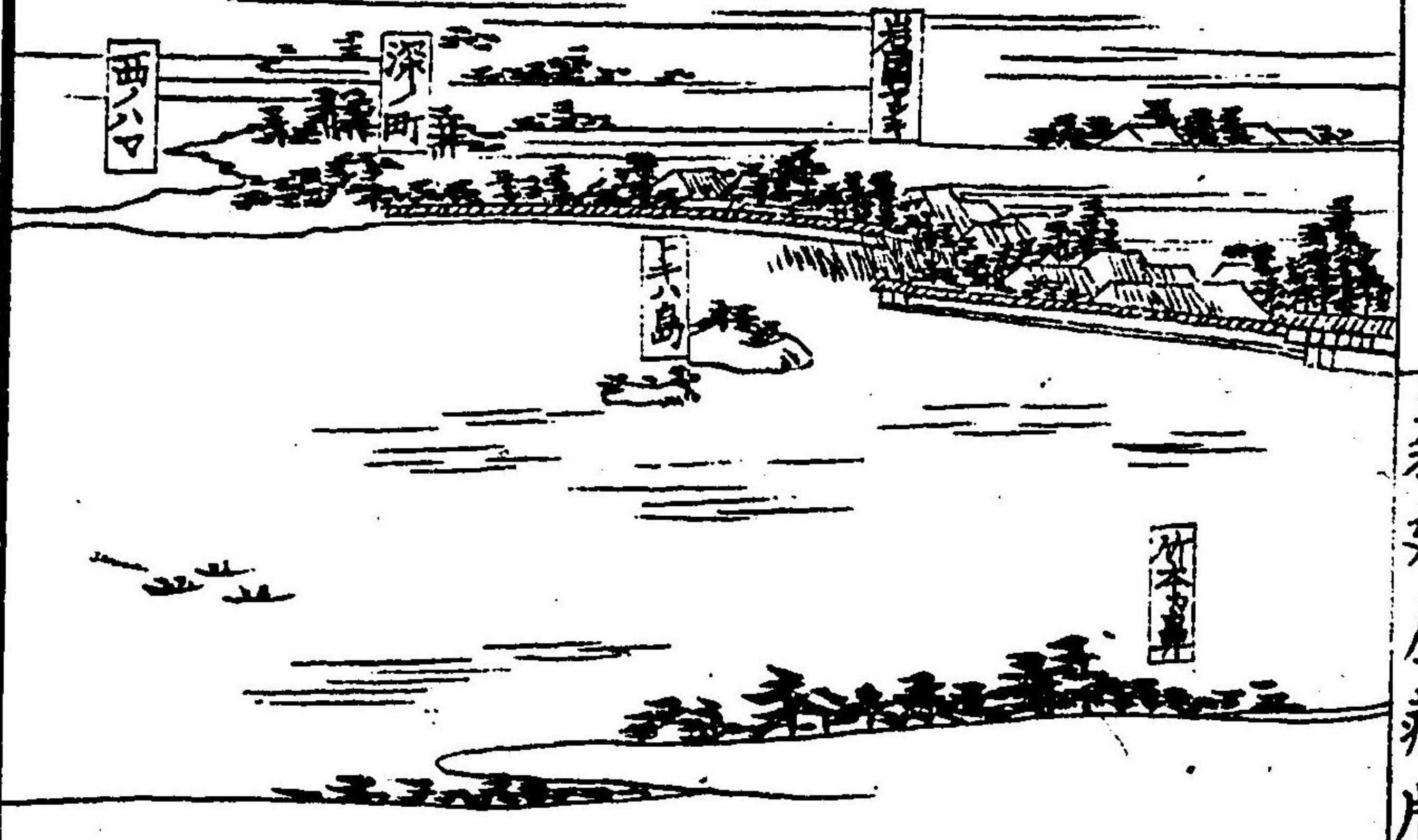
天狗拍子の舞

五鬼權現の祭事は執行す是ハいらの比より起りりと
云といへるさうねと古老の物語ハ傳へいらよ音此
浦の獵人沖より帰るとせし陸の賑をひて拍子とく妙さうり不
圖聞ええんハいりさうとせんと舟押立これハ猶先ハ漕かろ舟さうり
こそ何人の仕業もやいろ色音をとりさやね猶道よりて実否をいさ
さやと思へともやれうりて其人とも見あねいせんすあいうを
せましとりさう中より是ハいよきさうせんハ舟の舳ハ烏賊魚の黒
さうち付てあいらのさうさう夜のあるやいなかの舟と尋
はえれハ一人の老翁ち笑いて舟の上より即て夜への舞拍子の
色いろさう傳へ授りて老翁さう此舞よく覺えそは浦ハ漁

玉江大河の惣圖

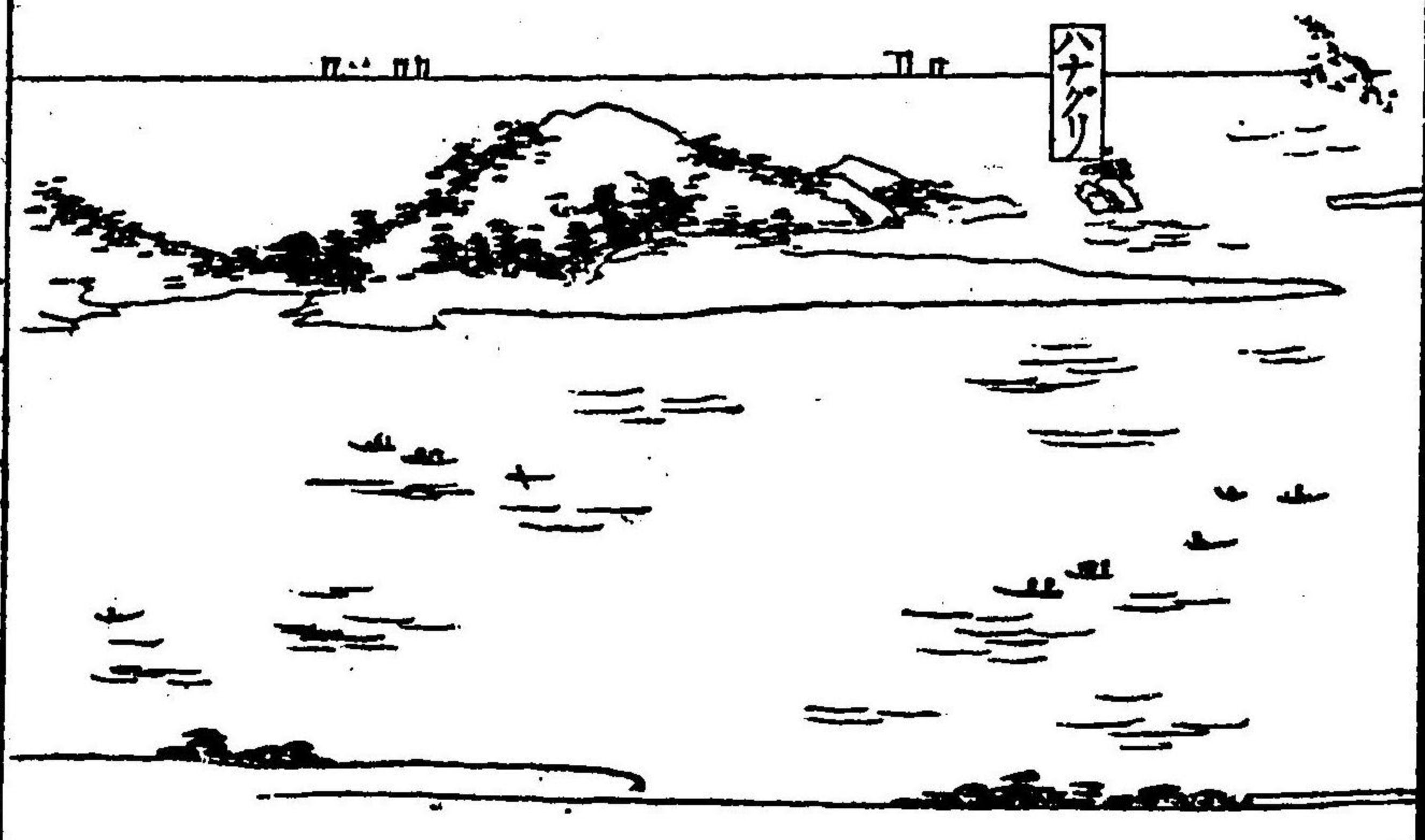
今夜瀟城月潮音聞
上看晴暈浮八水雲
影落三韓下界纖塵尽
中天大鏡團曉鐘隨
意促戀賞倚欄干

何處無明月玉江最賞
秋澄波風疊練晴岸樹
維舟難与姮娥伴但隨
鷗鳥遊欲窮幽靜勝聊
上梵王樓 南溟

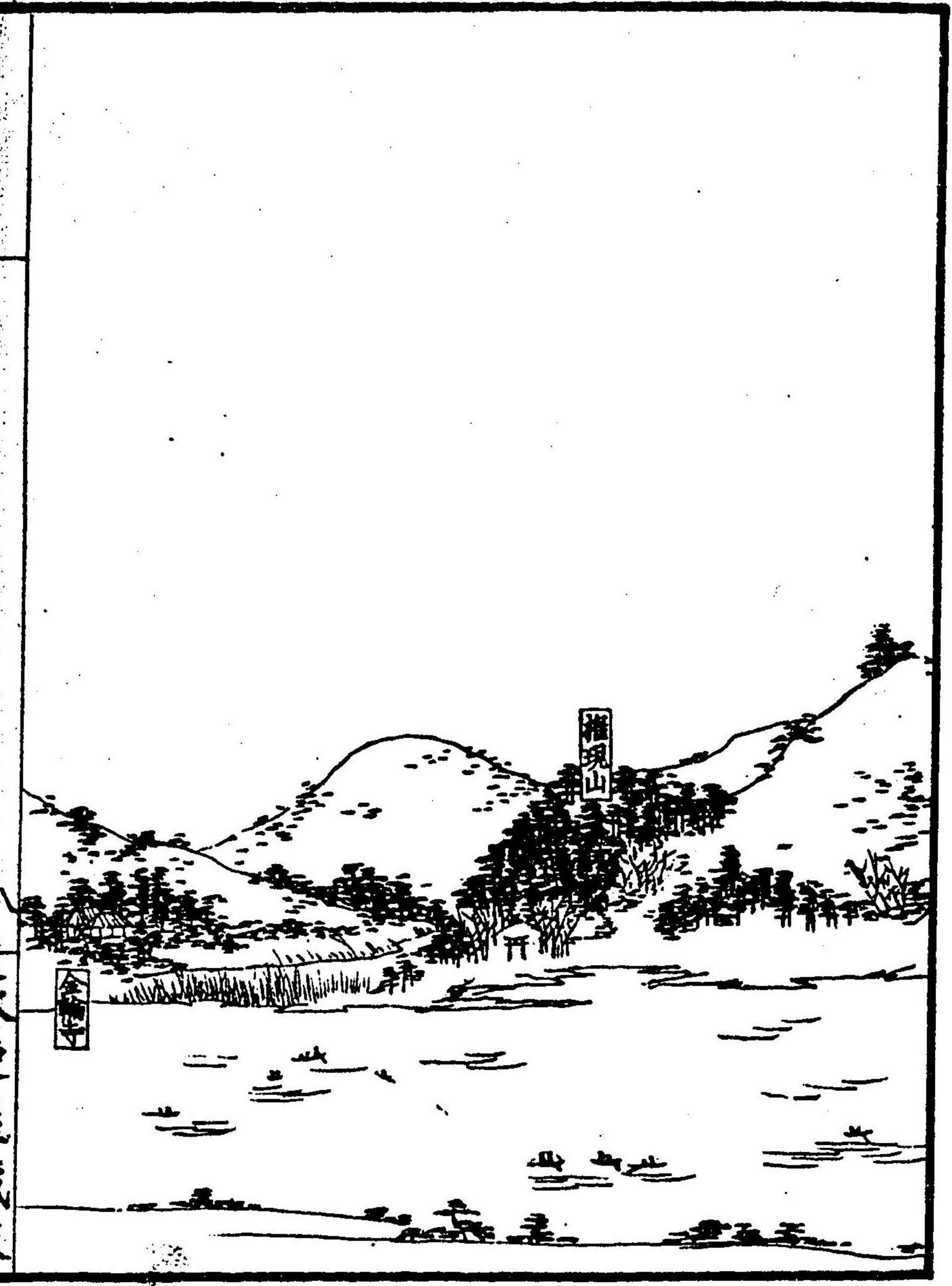


新編
屋敷
精片

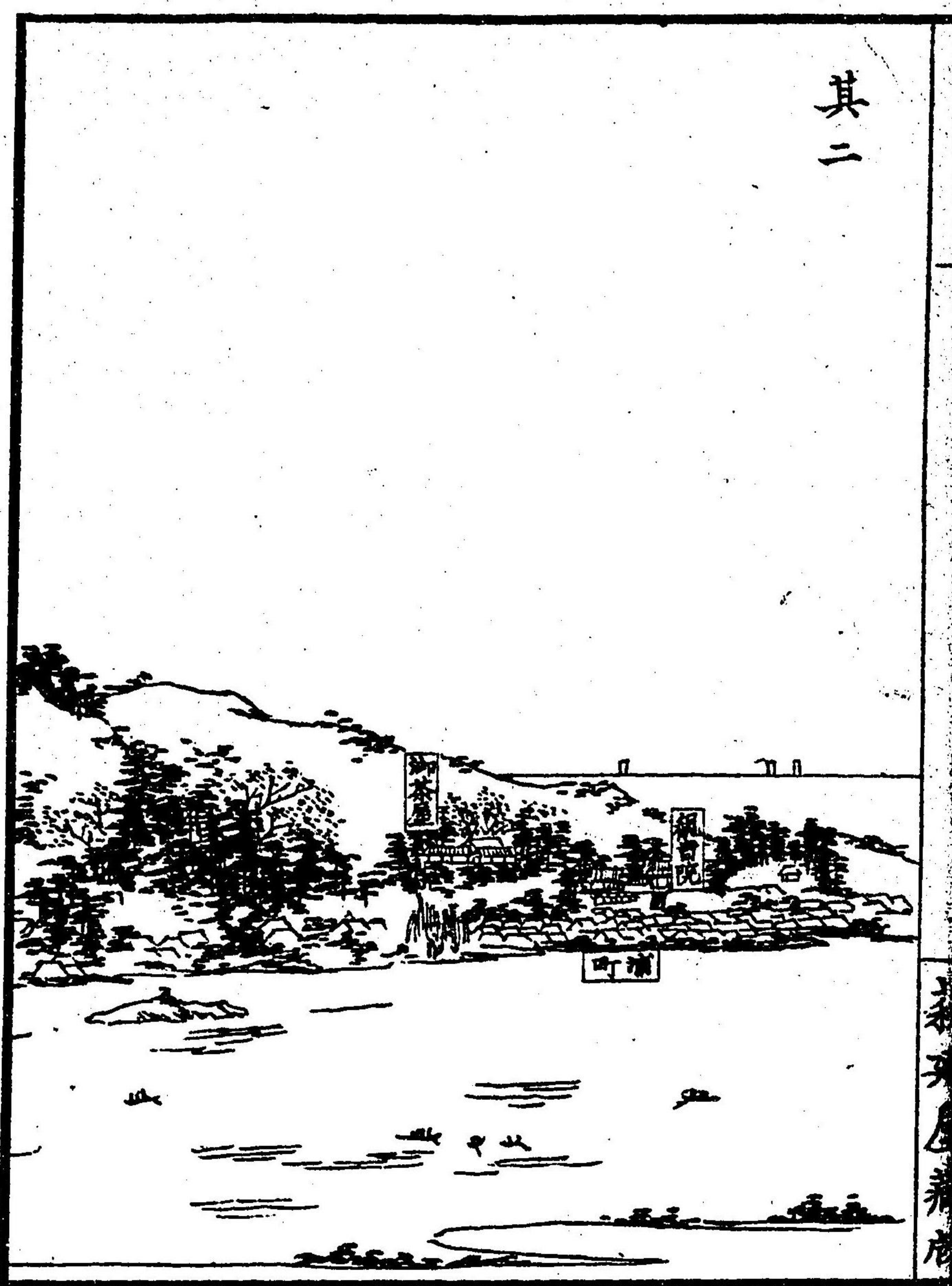
一碧瑠璃凝不流波光
始白月滿樓笙歌忽入
西風起人住廣寒宮裡
秋 周南



新編
屋敷
精片



八
大
道
屋
藏
版



其二

大
道
屋
藏
版

玉江秋月古岡

江の秋

うらら

うけま

らむ

うけ

ま

うけ

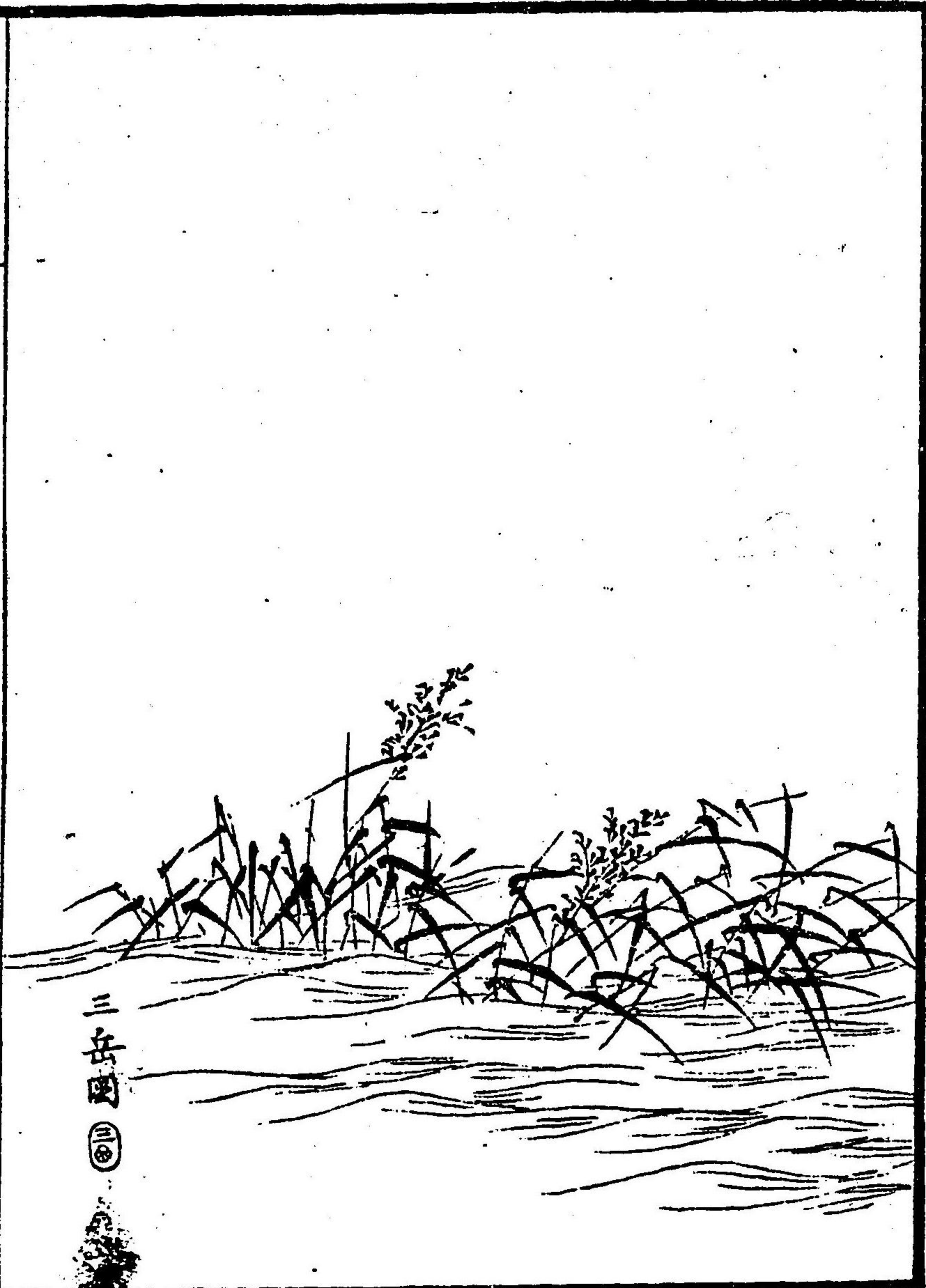
ま

兼



玉江一
片秋
明月入
清流
夜静人
回首
漁村烟
霧水
原鉄





十
大
地
屋
藏
版

三
兵
國
圖



新
英
屋
藏
版

二

りまきと紀奏す一必はあまきの漁りある一ゆめうらまふまきと
物語りてかまけす斗りうせむひぬ是や神の詔宣する一とみやまひか
しこみて夫より獵りし祭と此舞を奏し未りりと其後権現社
所勧請ありてより社前よおいて是を執行す年々獵りと多し時
よふれて獵まきと紀の此舞を公に願出て舞
ふかたは大獵ありて浦の賑もいとあれり

右の舞歌いと古雅なれは左にしる

初め恵比須舞とソノ哥

我ハま西の宮恵比須三郎我幸心釣の糸をくゆく云いと涙

中大黒舞とソノあり哥

是ハま生國を守護する大黒天とい我らサアリテ大黒の控

大こくのれまきとソノ云と歌

大のふつをウツタテとソノ是より天狗拍子哥

一番 牛若のぬのうらまのヤリヤ山の傍ぶがッケ天狗拍子ハゴケイコ

二番 それよりてハあご山一うおおぶがッケ天狗拍子ハハヤリ

三番 周防の國ハ大田がふアヤヒリヤア天狗拍子ハハヤリ

四番 夫よりてハといふがアンヤサマツガイ天狗拍子ハハヤリ

五番 夫はの國ハたのおんやまつふみや天狗拍子ハハヤリ

六番 牛若のぬのうらまのヤリヤ山のハツむつら天狗拍子ハ是迄

念佛躍

是もす祭礼に執行すは舞いと推するものこつより起るの祥
あつねと我叔父諫早法隆考へるものこれいふものす鄙の神事

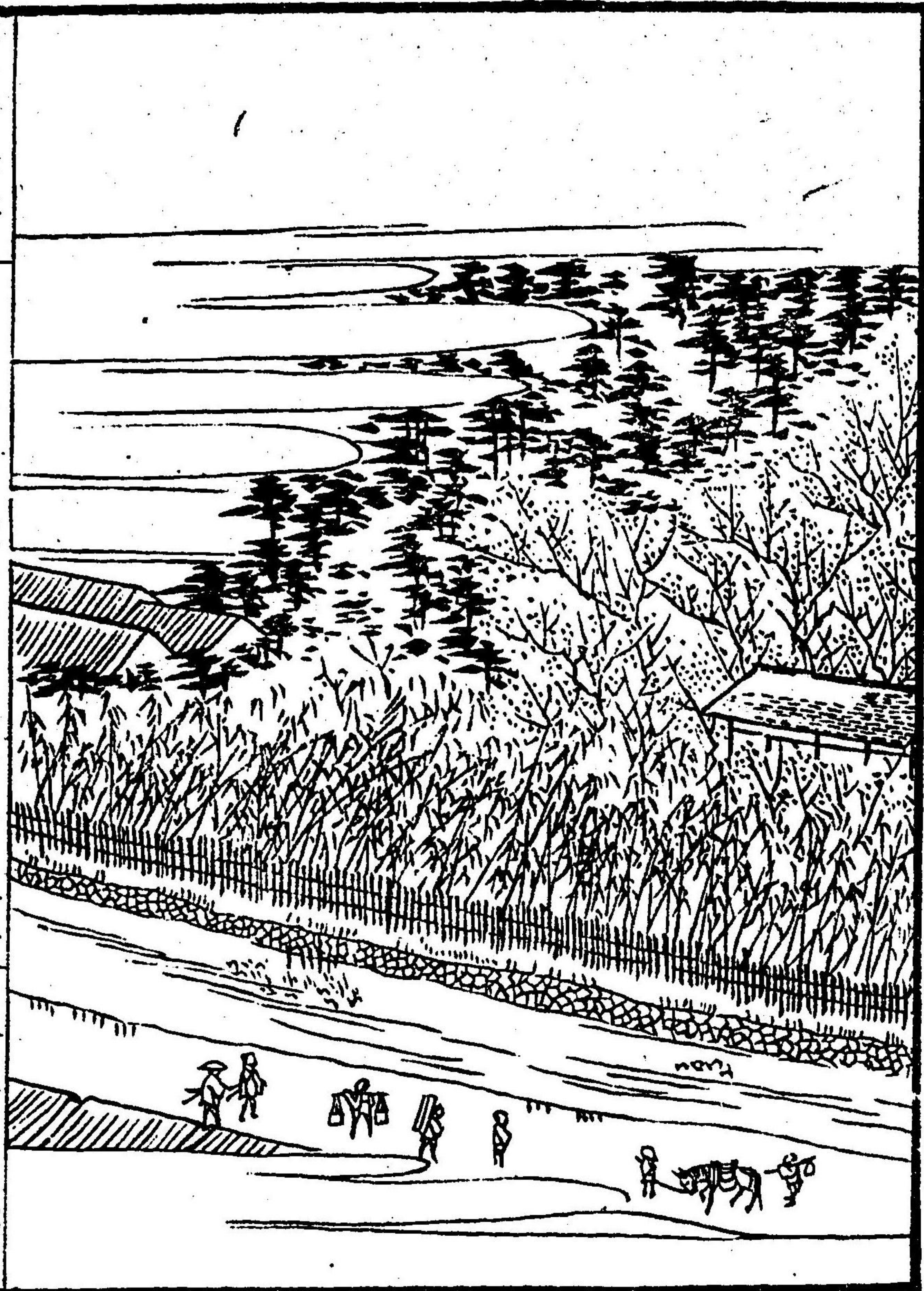
すれ念佛躍より慶長年間奈古山三郎と出雲の國の巫女お國
といりものにあまの森夜を集へ華浩四奈河原芝居をくつ僧衣を
着し鉦を和き仙号とゆを付て踊るなり是を念仏踊といりかる名
目のうつれりやあんとおわゆる岩倉花園といひて北山にて毎
月念仏踊てふものあり是の燈籠をかつきをくつんやと舞ふは如き舞
をさしてあまのさるは他所にも樂をうつとゆよりておもへはは
と田楽の遠風ふわあんとおもはれりなまき田楽の画は笠の大きなる
と作り花をかきして胸に付る鼓うつ棒をといとくゆり今も持奈
良ハ田楽現存して其業をきくことなる家ありて春日の宮の神事
執行すときから田楽もまきとそは代りて浮花物語といふ
いよまき女一やりに紅粉をまぢひ齒を磨く漆り白き衣は白き小笠をか
かり田面におりてちて苗を棒る田とソノ男坊尼とソノ女二人大きき
る笠をさうけ足駄をたて田上よか田鼓といふものを腰に結付苗ふ
まきとちすりて有りるよかすめりては狗女君めよせのこま
くさよせんとうと見えゆいへハ殿上人も扱ひむひのよて古事

五鬼権現社前
天狗拍子の図



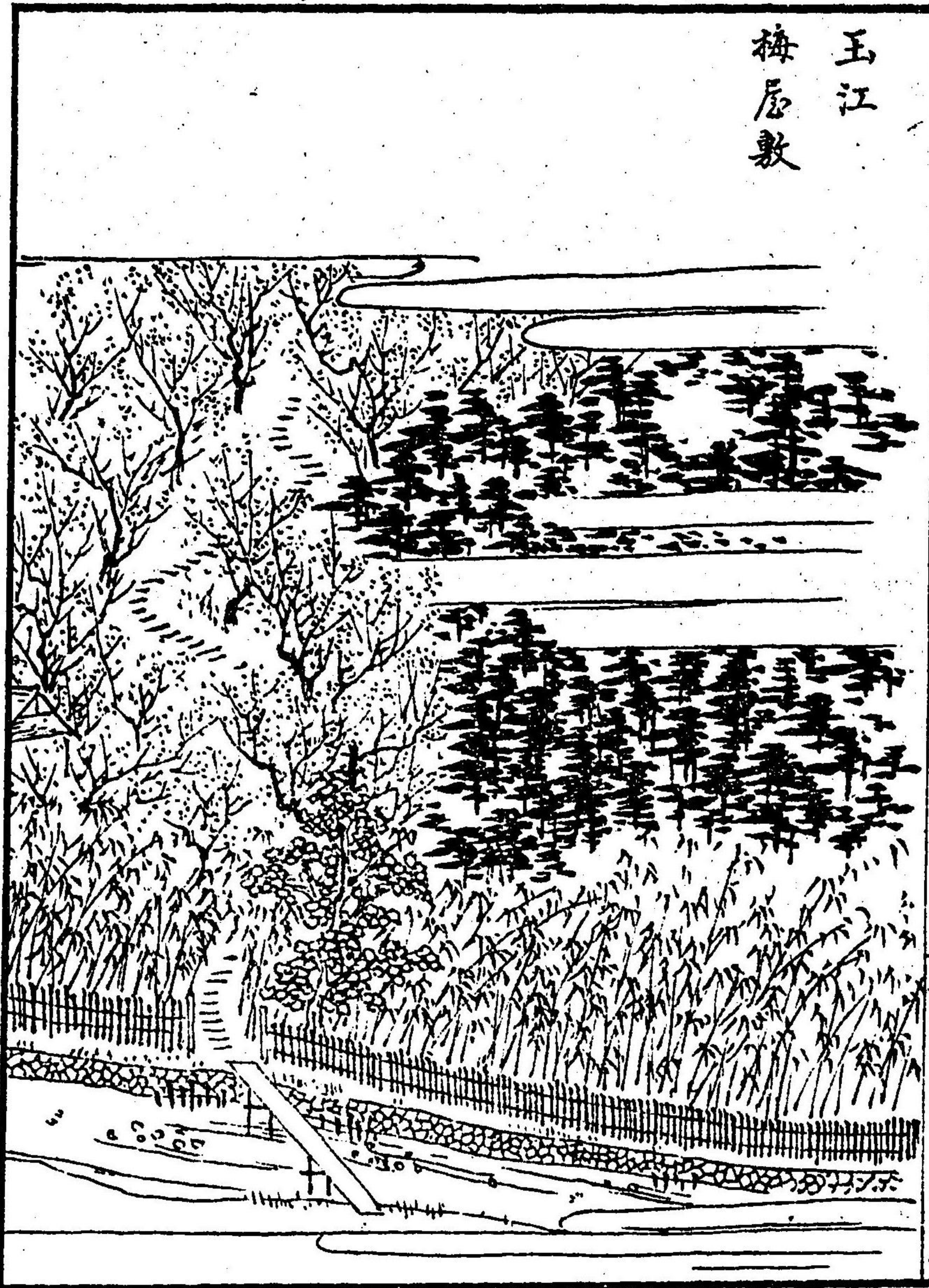
十一
天狗拍子の図

五鬼権現社前



十三
長
更
是
歲
末

玉江
梅
屋
敷



新
建
屋
敷
牌

二

玉江晒場

水上の北とまより山田村
をへては流し流しとせむ
流し流しとせむのむら
ある田舎やまより麻布
たまよりまよりの晒を
この業はすすすすす
かより近所をまより
おまよひて日あまは
る



金輪寺

同所まよりの場より二丁程北にあり

侍山

今粟屋氏下やまきの山ありと世俗のいひもて行く所あり

泰嚴公重き御由緒として粟屋帯刀と賜ふとまよりのあれと證文見

あつらひに古より云侍山の豊浦なる生羅村の内よある山をいふ

あるへいされとそよのせむのいふは是も阿武の松原の條も

いひもつる如くたのいひもつるまよりのあれありたり

名山雜記

侍山

能因歌枕云 長門

今按し生倉

倭名抄伊久
俗云伊久羅

とりの所あり山の形不二に似たり

遠く見渡すに山姿羨うして愛するに堪たり俗に侍山形

山西様へ通してとりわらひけとやうらとゆるるやうちれ
と其義違へり形山とよひの基き謬らり

夫木抄云伴山長門或云因幡藻塩州等の諸抄も伴山
長門とあり

祐舉家集

いかにたつとこもきりこのをきりのひをれとたにおりけの山

は歌のてくはたもけの山因幡歎但夫木抄伴山の哥の内

に祐舉いふたよとも引用ひう然れはたもけ山もた

まけの山も同一所りや

六帖

どうせろ伴山のさゆまみ秋のと恋ひてはるね姉も扱上良女

永久四年七月忠隆家歌合

藤原為忠

夫木

終の月う面け山の月えれいせとせうつうわらう那

櫻江暮雪 八江萩八景の一にて尤風光を貯へり名うおひ

春の櫻江打霞にて水の翠の春と争ふ吹風す白水あくるに

暑をりもれては梅山の鐘乃音よ夜のいそ更なるをねとらき

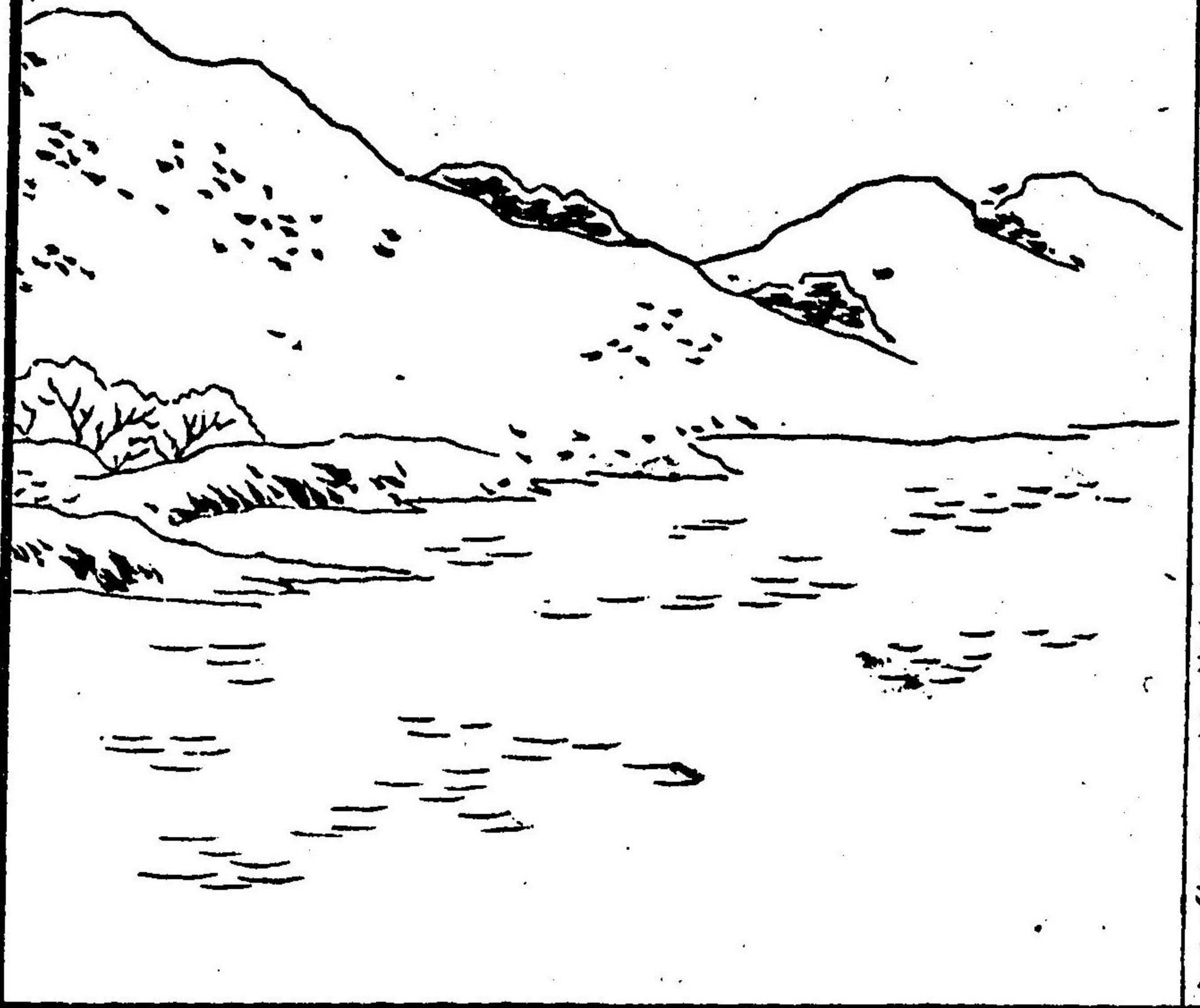
野分の風は冷ましく立て縄手往来ふ袂を熱ふ渡守を呼は

ふくぬい深雪の中へ埋れて面影山の姿のと所得白ちるを

まて奇きうとすへり市中の騷人あやひあやせり

櫻江暮雪古圖

雪滿櫻江更向津晚
來舟早訝行人風回
偏惜入浪碎棹轉何
妨歷笠頻 原秋



原秋

あつきの

夕れもい

ほろろいれ

ほのぼろけ

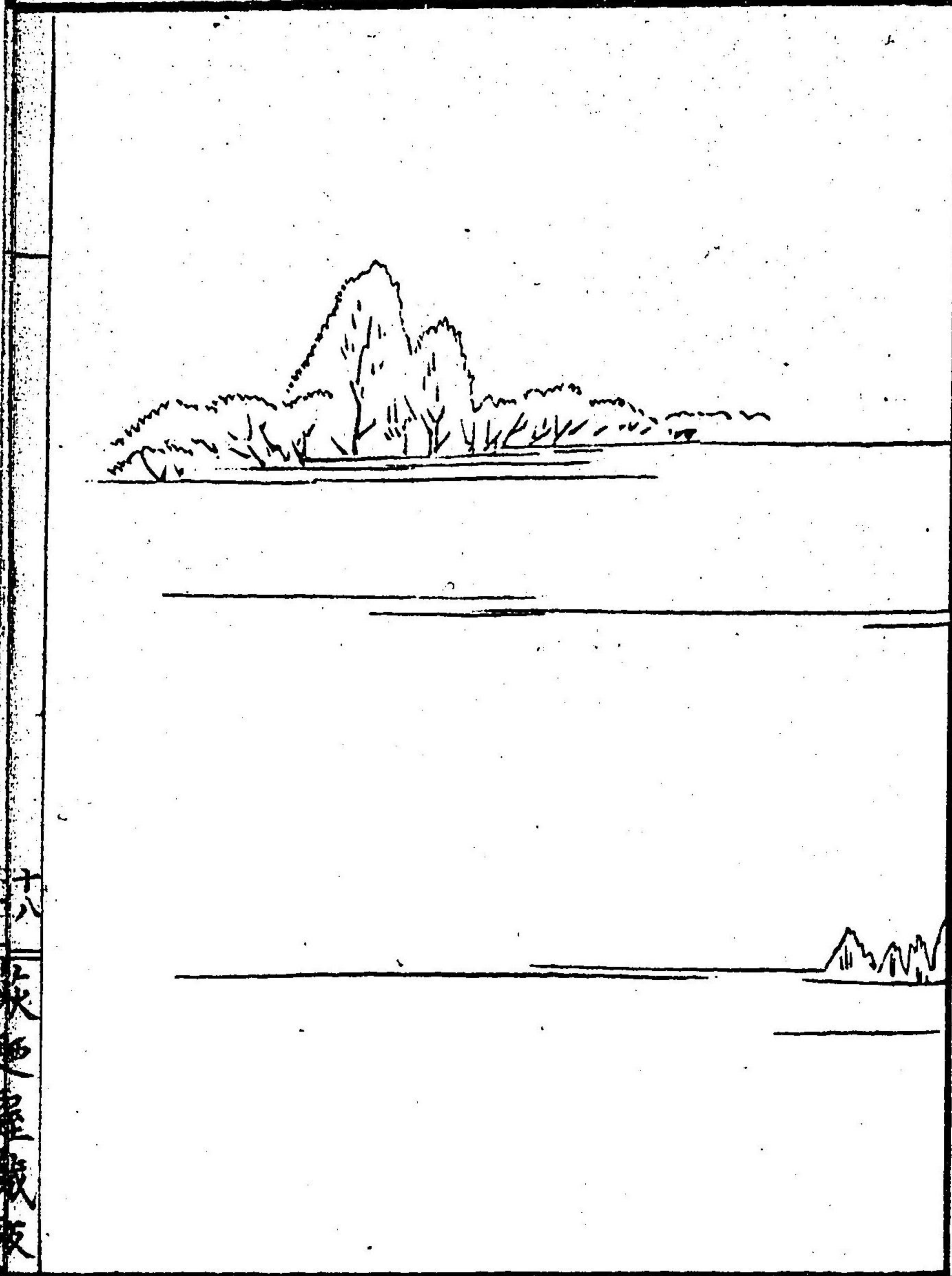
ちろろい

ころ

春貞



春貞



十八
山水
卷
一



三岳圖

山水
卷
一

一

雪滿櫻江更問津 晚來舟早訝行人
風回偏惜入浪碎 楫轉何妨歷笠頻 原欽

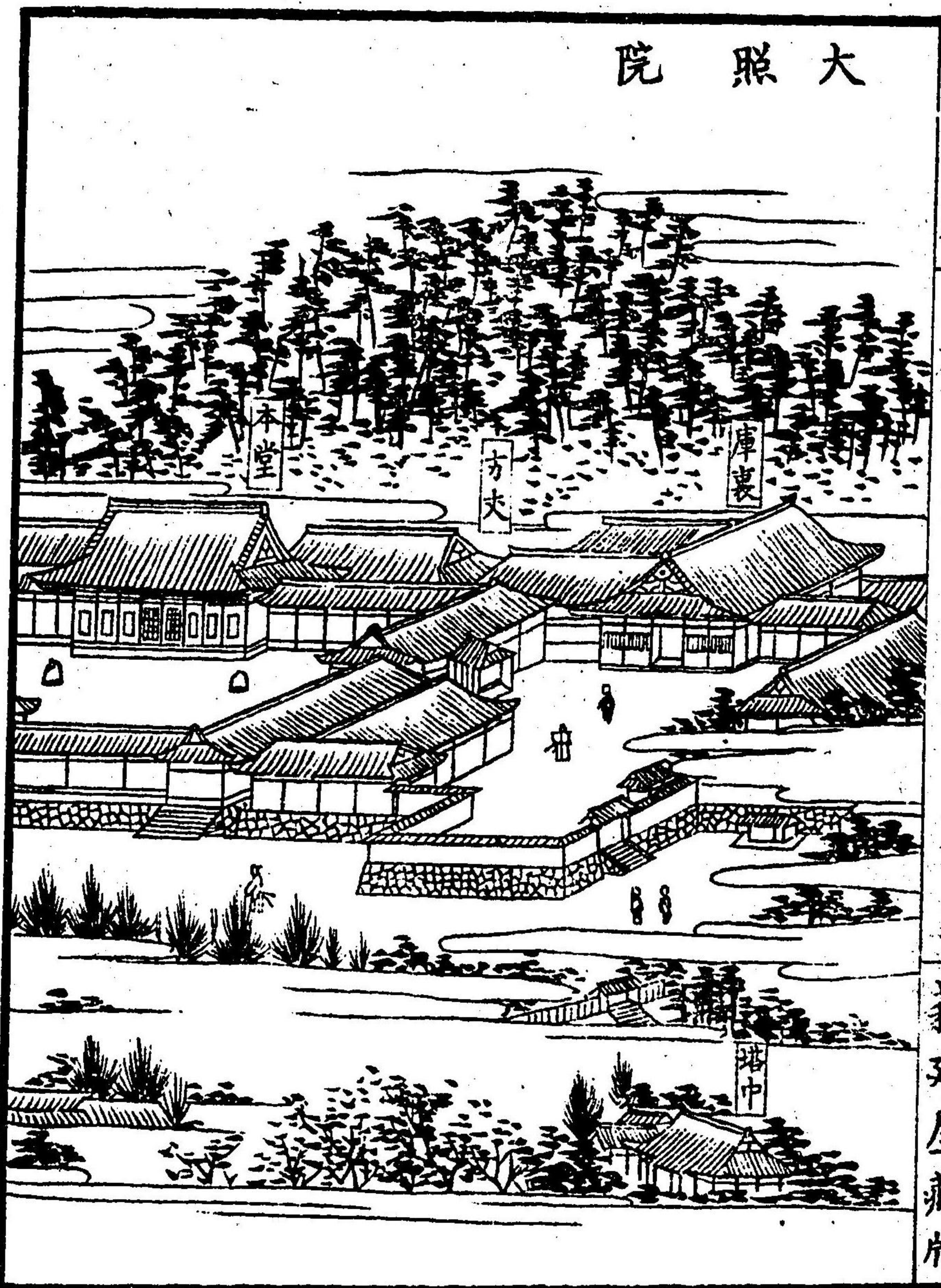
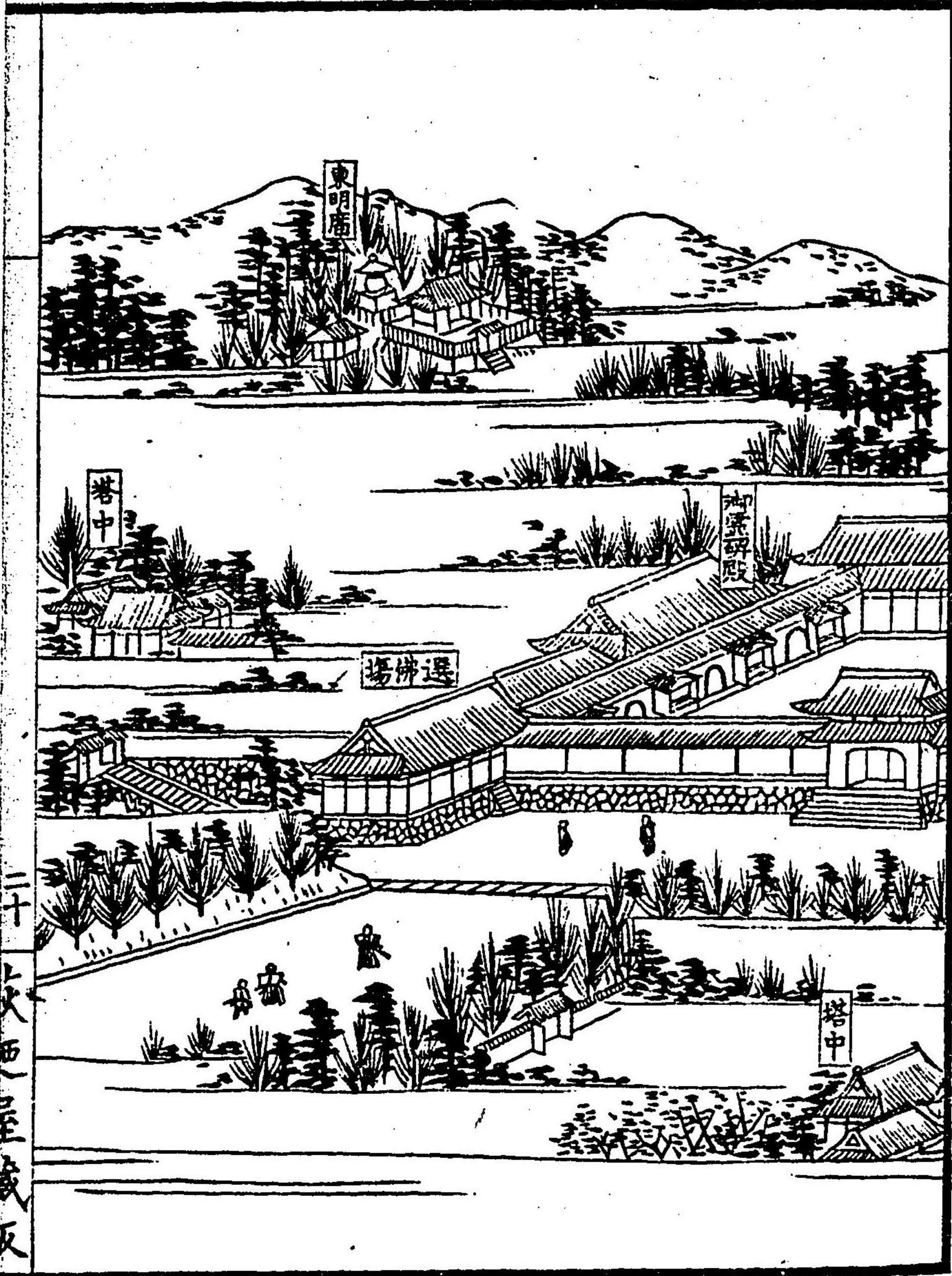
白雪のやけといささか花ほのまみけをちうとそとらる 春貞

靈椿山大照院 元ハ觀喜寺と号し櫻江ノあり京師南禪寺
派の禪園として教臨家三ヶ寺の一なり

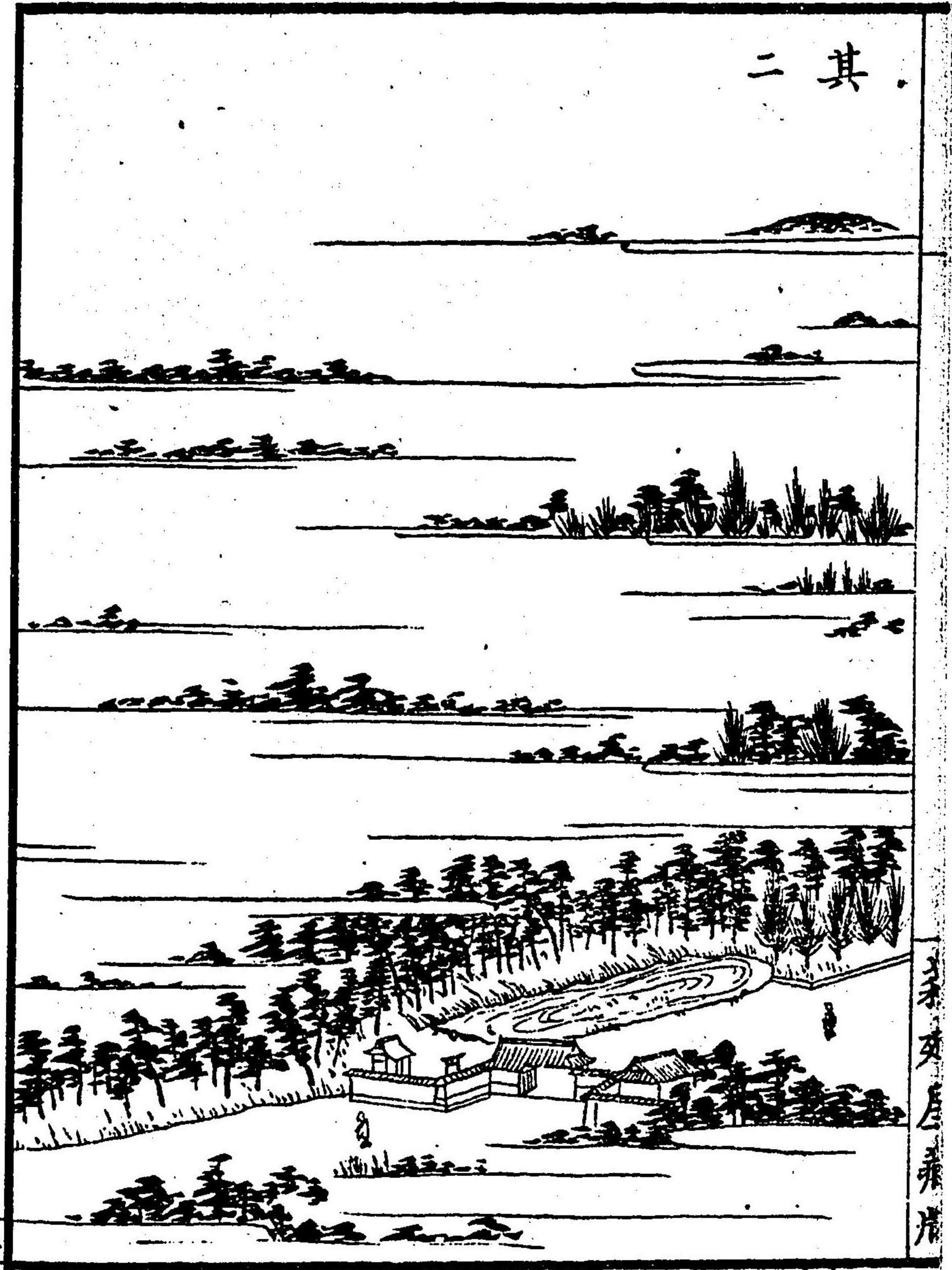
本堂 本尊千手觀世音菩薩を安置に天竺伝といひ傳ふ相傳ふ當寺

そは、め月輪山觀音寺といひひくく人皇五十代桓武天皇
の御宇延暦年間御草創して勅願道場の佛域なり開山を
義翁傳等大和尚といひ後号を大椿山觀喜寺と改む夫より

久しく廢壞して修の草舎なりを承應年間大照院殿の
御菩提所と定させむひて即御法号を以て御寺の号と
し山号をも靈椿山と改められしやと後延享四年田禪
かりて須史の間天樹院の地に移る又寛延よりりて當
所へ御再建ありて伽藍堂宇昔よりも廣大なり即て中
興を南禪言如圓尊和尚とよりりて曰當寺を大椿山
といふ濫觴ハむく此山の頂上より大椿樹周圍六尺中も
餘まら古木ありて夜毎に光明を顯せり是や椿樹精神
の靈驗著しとて一叢祠を營て山の中央に祀り奉まら



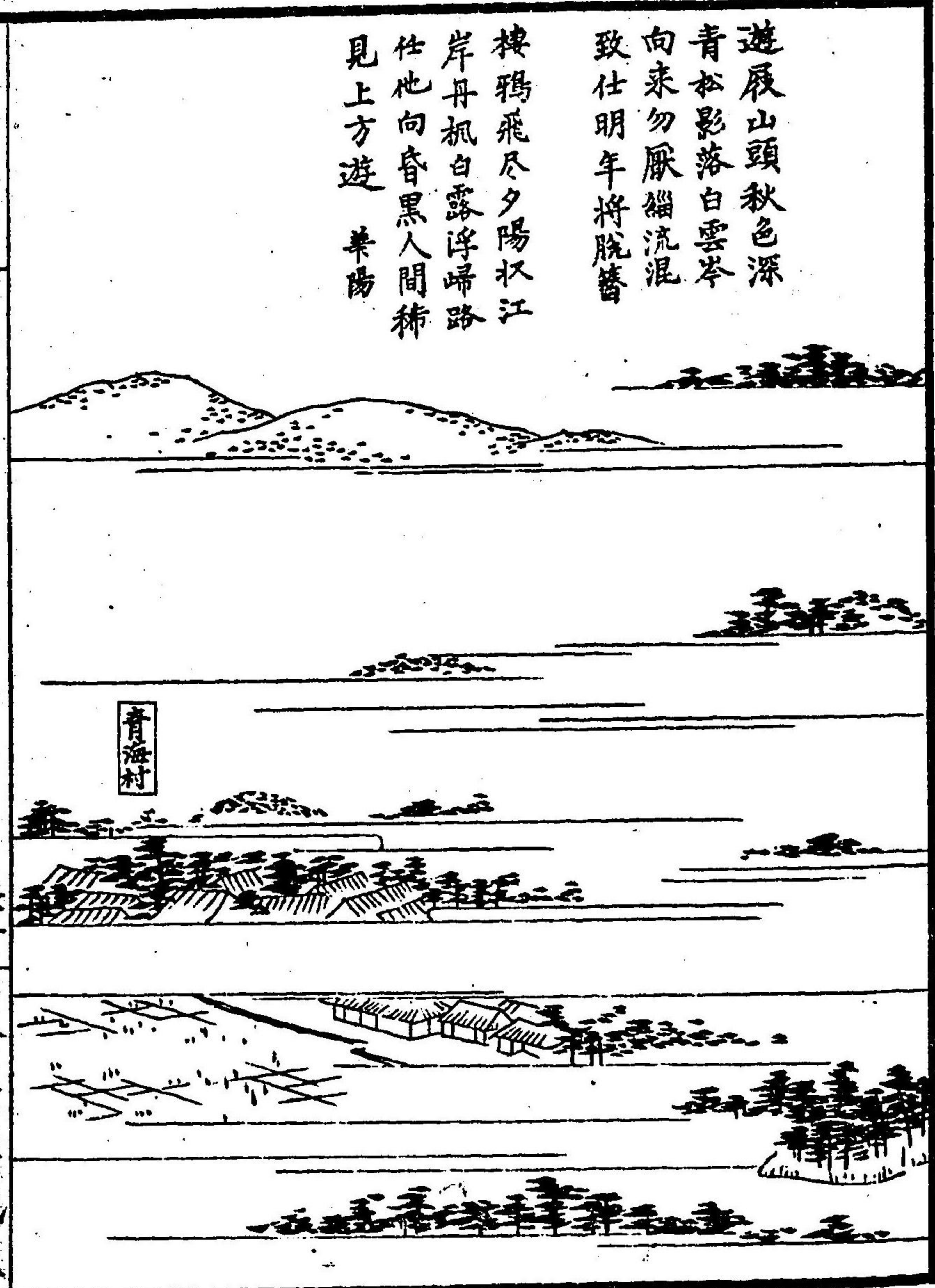
其二



青海村

二

遊履山頭秋色深
青松影落白雲岑
向來勿厭細流混
致仕明年將脫簪
樓鴉飛尽夕陽收
江岸丹楓白露浮
歸路他向昏黑人間稀
見上方遊 華陽



青海村

二

則鎮守神祇園社是之ことハハ此事によりて山号をり大椿山と改めり

開山義翁大和尚像中の古銘

建武二乙亥十一月戊子朔廿一日庚午入戒後百十三年始而奉造工
于時文安四年丁卯五月廿二日記焉即塔建立文安第六龍集己巳秋八月
一日作事始之同廿九日造畢則時奉安置者也

住山比丘

前圓覺千英叟祐俊 奥州人也

經庫

御經數卷を藏に内ニ觀光院殿の御木像
を安置に脇ニ掲る所の板の銘をのす

重修靈椿山經藏記

寶曆乙亥歲靈椿山經藏重修成矣蓋其成則先侯之志願也中畧廟之西
南元爽之地隆然負堯圖十二步者乃經藏也而即先侯之遺像於其中
安置焉朝服冠纓正位儼然日夜以奉香火延報罔極之德也中畧是歲安
永乙未逝後二十五年正忌近侍諸臣不堪追慕相与謀而欲作經藏記且
贊功德叙行事傳諸千歲矣迺求中畧言臣謝老病不敏不可中畧亦嘗以侍讀
因勉病謹書其概畧副諸左云
伏惟 平城天皇苗裔故防長二州主大膳大夫從四位下行侍從大江朝臣

宗廣侯享保二年丁酉七月六日誕生長州萩

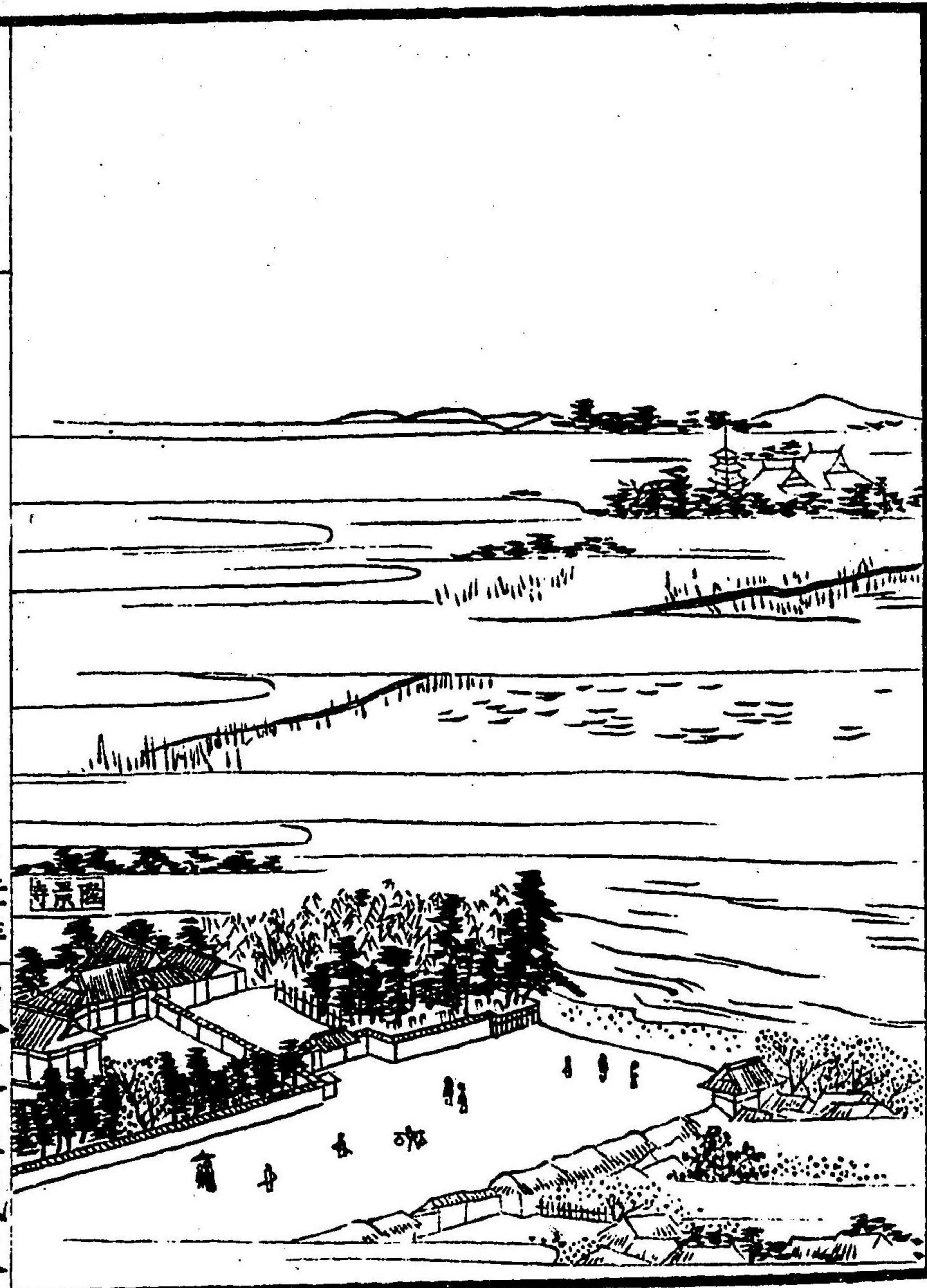
泰桓侯鍾愛之肇賜小字百合

助君別佐澤氏 君生美如珠玉五歲眉目如画鬢髮如漆聰慧敏速而猛
也人仰而相之曰是此兒君有奇骨若非龍駒則鳳雛非庸人也人望而畏之
如十歲以上之人也是歲泰桓侯遠我在東都乃顧左右召史曹主事乃美
興詮後廣曰昔慶長四年大照侯行年五齡着袴之時神祖使柳原式部
大輔賜長袴而着之是特例也其後中畧今改例使汝猷長袴十一月六日君始
着袴十二年丁未正月朔日泰桓侯賜諱維廣中畧寬保二年壬戌八月野州
刀祢川次口行溢諸州民居漂溺道殣相望 朝廷憫恤之使 侯與役修治
焉蓋大役云乃得竣事而奉承其大役不亦皇天眷顧所及乎有司等因相
与謀而勒碑於武州崎玉郡鷲宮之祠以貽不朽也中畧四年辛未二月四日
不幸短命而薨國春秋三十五葬于大照院 先塋之次法謚 觀光院殿天
倫常澤大居士云中畧侯為人槐梧秀偉眼目射人性深恒而有若城府而能
寬綽而容納始則聰明英斷聞善若驚疾惡若讐中則早知名於天下中畧
贊曰 皇哉 遠祖 平城帝裔昭穆繁昌茲神茲祭束帶儼然威儀繁貞
祖宗之靈共安新廟南面如在四方具瞻風軌德音景行尊嚴覆天之恩既
足既昭祚胤万年無殫無職

安永四年乙未春二月

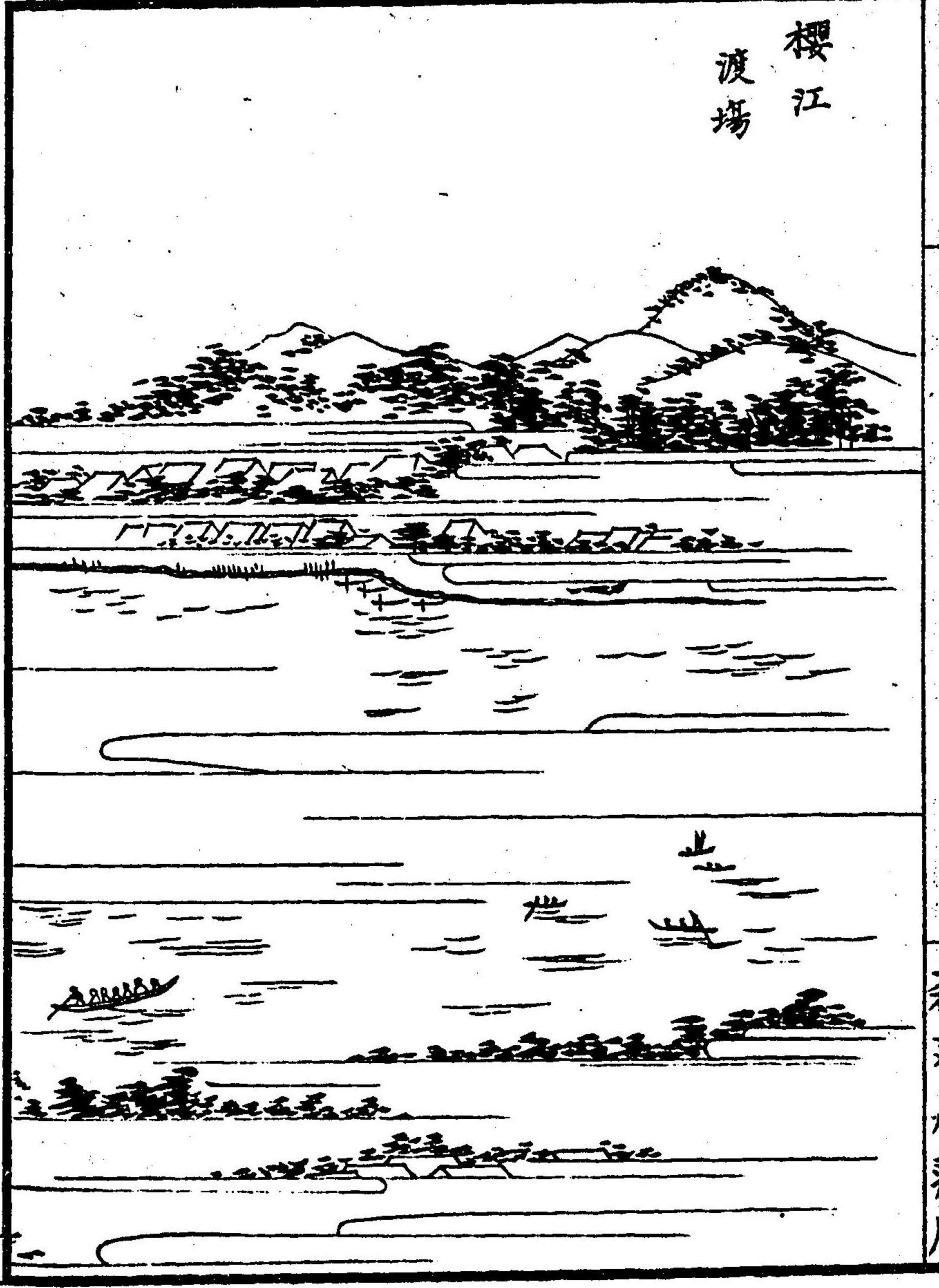
長藩 明倫館祭酒臣小倉實廣彦平謹撰

長藩 明倫館講官臣州場安世用藏謹書



三十三
大正
三

櫻江
渡場



三十三
大正
三

大照公御廟殉死廟所牌名

大照院殿月禰紹澄大居士

孝安宗忠居士 慶安四年辛卯正月九日 梨羽頼母就云

三養安宅居士 同年正月六日 小川兵部少輔就克

華亭堅固居士 同年正月六日 信常右京亮就実

傳外以心居士 同年正月六日 山名大膳就行

華岳惟信居士 同年正月六日 村上監物就心

惟忠玄功居士 同年正月六日 祖式主計頭就好

梅心專保禪定門 同年正月十二日 久保五郎右内尉

和仲淨春禪定門 同年正月九日 梨羽頼母臣山本亦耨

歷代御廟

泰巖院殿 綱廣公

青雲院殿 吉廣公

觀光院殿 宗廣公

容徳院殿 治親公

清徳院殿 齊熙公

崇文院殿 齊廣公

釋迦堂

御寺の後山より此堂宇ハむく一當山北谷より大杉の木一株ありて採用して其一本を以て修繕せし所ニ則觀喜寺時代より連綿して朽るる一本を釈迦如来ハ坐依して以て火ケ六尺余是所謂椿木を以て彫刻し之のありとをいひ傳へる其胎中の古銘左より云々
日本國長門州阿武郡椿郷大椿山觀喜禪寺佛殿本尊奉修覆本師 釈迦如来

住寺第五十七世

法孫比丘祥昭

康永三年甲申十二月

大檀那沙弥源勝

三好氏

廿五日立春日

奉行優婆塞久持

大佛師覚賀

當山十景といふハ

圓通巖

山上觀音堂をいふ

東明廟

大照公御廟

白櫻嶺

當山西の峯

華嚴峯

當山南峯

白鷺池

本門内左の池

翠竹園

南の岳

丁字水

門前の流水今古川筋といふ

小松江

まて當寺の近辺を以て裁名所より一なり

選佛場

禪堂を云

渡香橋

中の門より下通りとあり
今繩寺より橋をよる

田麻の樓門の揚る所の扁類

五色室

禅堂の揚る所の

選佛場

此外聯類の類多し
累して揚りけり

高月院

同所御位牌殿の後あり同寺の支院あり

開山鶴天慈松和尚あり

相傳ふ美祢郡青景村月溪院を引て号を改む元祿三年の

建立あり

清正院

同所御本門内の右あり同寺塔頭の一ありて開

山ハ高月院と同

相傳ふ美禰郡青景村慶久菴を引て元祿三年建立あり

所あり初り清凉といふ後より改む

道樹院

同寺の塔中よりて裏門の外右あり

相傳ふ厚狹郡宇津井村實際寺を引て号を改め元祿十年

建立あり所あり

小松江晚鐘

同所をよる八江菰八勝の一ありて風景黄昏を

小松江晚鐘古岡

山の

うけ

きよ

きよ

やう

入

春負



新屋

断霞夕鏡

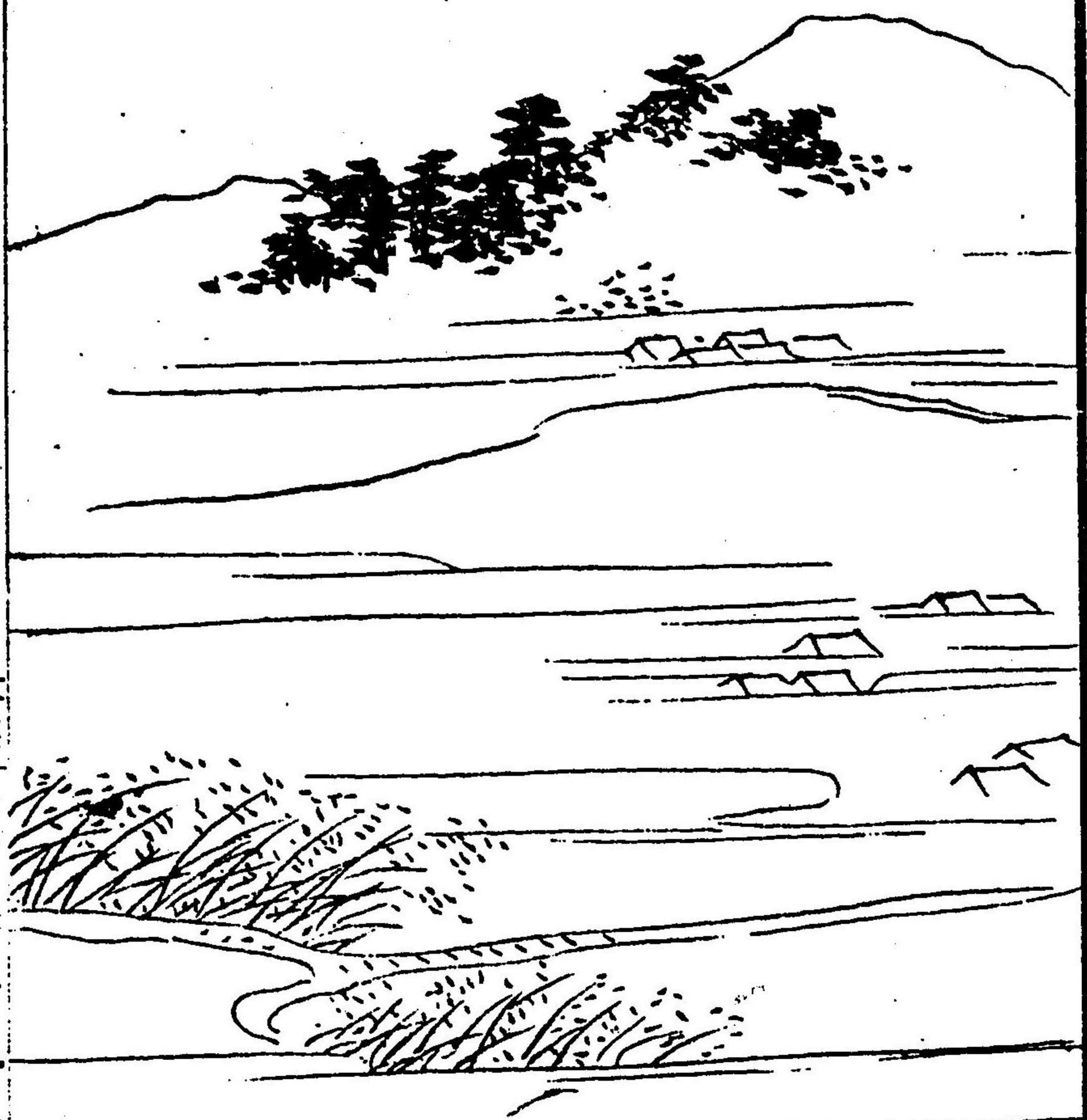
峰深寺度

疎鐘漫

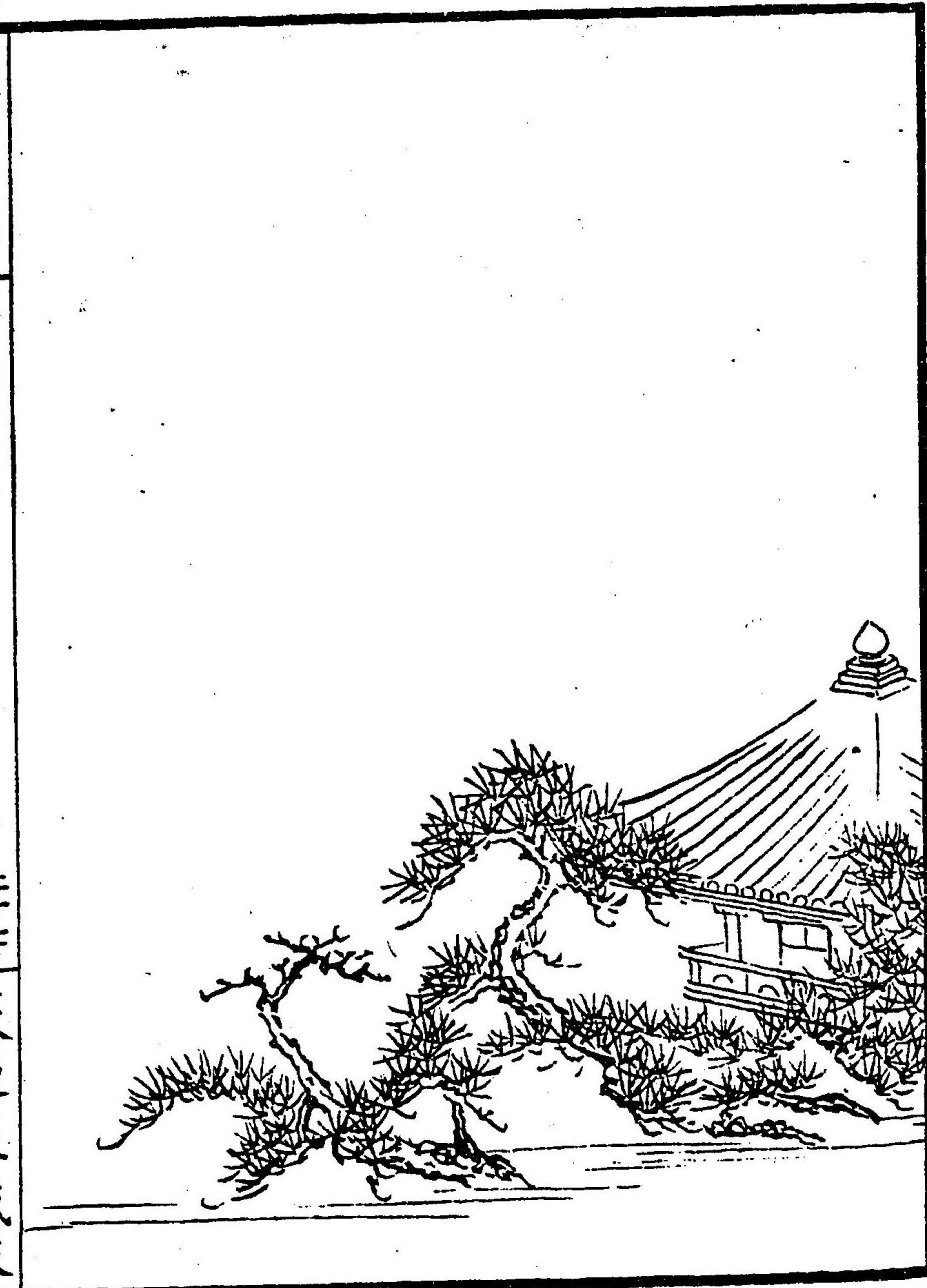
春江水平

吞樓外松

原欽



三六

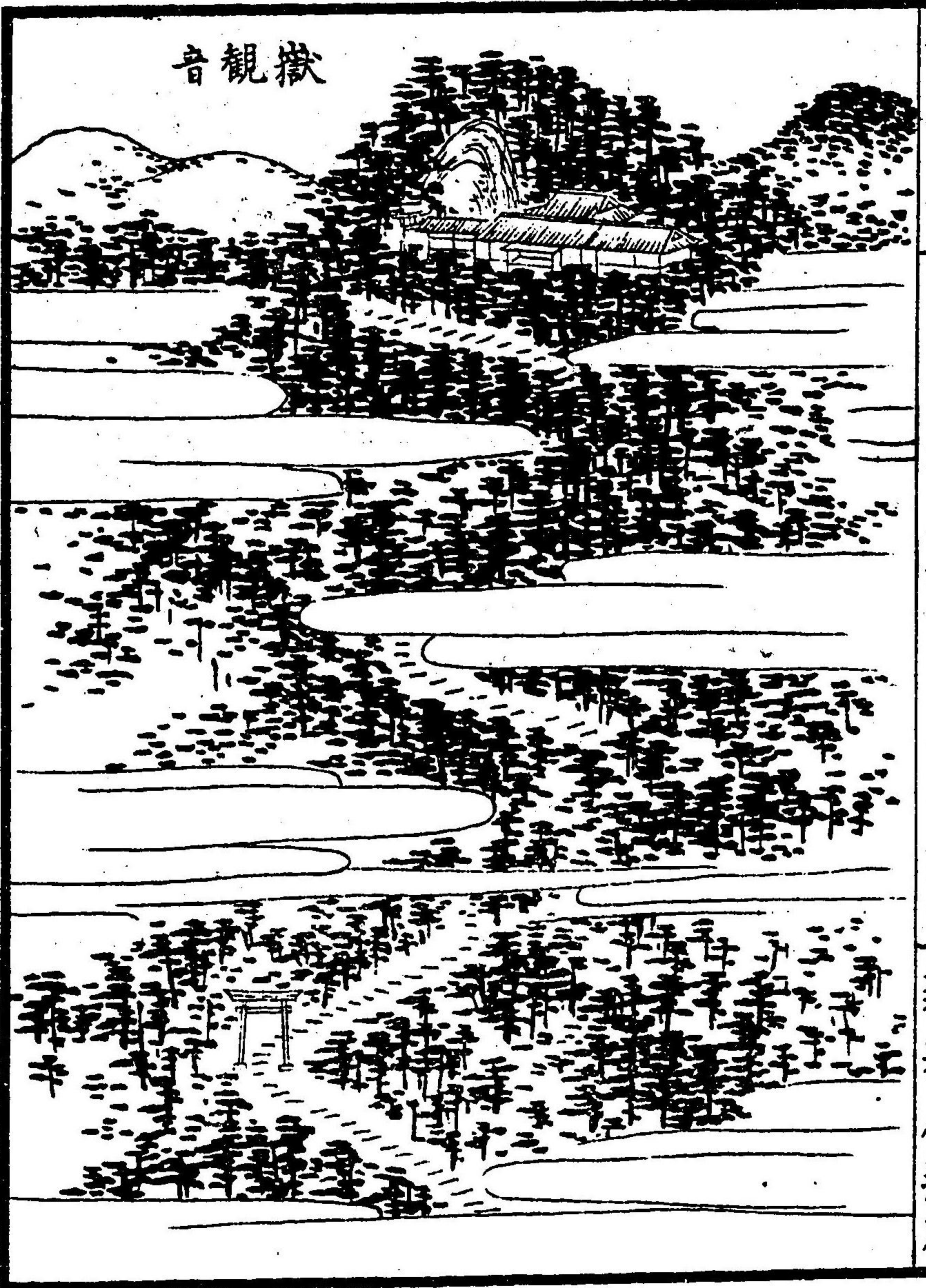


三十五



三十六

三十七



新築屋敷

尤も佳くす

断霞夕続峯 深寺度疎鐘
漫々春江水 平吞樓外松 原欽

山のほとりありてまき江の松よりつるふおのうら 春貞

古川筋 同所繩手は架る小橋の流きをいふ源ハ川上河より
て螢火山の麓より霧口をよぎり南明寺の下水溜り入大
谷長藪の中をいそぐ濁り淵 今椿社一の鳥居
の前小流をいふ より小松江通り大
照院の前は流き落る川をいふさそ古川といふも今の太川出
来さうり以前よりあれハ此称有とより或人云世は古川筋

とよ説あれどさぐりそハ此橋本川の往昔よりありて川幅
も今よりハ廣き所ありて大照院本門前より迂り込ハ入四りて
みる橋本川の流をさうさう成御寺御再建成て参詣せらと
して新道を作らせふよりかの本門前より今の如く御開地
とろりろりわのゝ其後田甫へとも水派を付られて御寺の前
通りへ切ぬれともこれハ此御開地の所ハ昔の大川のうら
かれハ猶穂毛の残りとも名さるへ古く螢火山の麓より流
き出るともあらさるゝ慶安教画図を閲ても明らかなり

光明山西法寺 青海よりあり浄土宗よりて龍昌院ニ属ス

開山ハ心蓮社光譽良間和尚よりて享保年間の建立なり

本尊阿弥陀如来千体頭 長三尺五寸の座像 脇立観音五百体頭 長二尺五寸の座像

地藏尊頭 長二尺寺の座像 阿弥陀如来百体頭 長二尺の座像 観世音菩薩百体頭

長二尺の座像 地藏尊百体頭 長二尺の座像 三尊体百体頭 長七寸の座像 の數多を安置す

相傳ふ元祿の比萍水浮雲の僧来りて千体の靈像を彫刻し
則當寺を建立せし所より世人當寺を号て千体佛と云ふ

縁起左よりあり

夫當山千体佛之尊像者其以前一人之有沙門阿武郡椿湖景山之地
求草庵結千体尊像之業大願而漸成就維時元祿七甲戌歲從初春室
永三丙戌秋九月迄凡十三箇年積星霜而創立莊嚴不殘為成就者也享
保七壬寅二月十四日本堂悉建立并入佛供養等在之伏而願者千体佛

之善迹仰籃堅固而照日月光無陰三宝安体而出離生死之妙樂無盡乃
至沙冥二世圓滿悉地為成就今依之界縁起云爾

椿八幡宮 椿村西分りて同所より五丁より東にあり菰五社
の一宮廓外の總鎮守りて邑郷の産土神あり

祭神

應神天皇 神功皇后 仁徳天皇
住吉大明神 蘇訪大明神 宇治若皇子

大宮司青山氏奉祀す

贊辭の神主祠官社人等多し

社傳より曰往古人皇八十七代 後嵯峨天皇の御時仁治四年
二月十五日右大將源頼朝卿の幕下佐々木四郎高綱宇治川
先陣の勲賞として長門國守護職を掌りて 時相摸國鎌倉
鶴ヶ岡八幡を迂り奉りて一郡一宮の守護神として此椿村より

勸請せし所ありまこと正治年中三好康久夢想によりて當郡

木部村より勸請せし所あり

慶長年間川上村より在りて
原平三景時勸請の八幡宮を

神相殿より遷り奉り

後寛元二年八幡宮敷地椿郷の内四至の境を

領つ川島庄与牧村より權現を勸請す

今与牧權現社ハ中津江
山中より在り三の巻の條

よありハ社
傳ハ畧す

大井村より八幡宮を勸請せし

今大井村
ハ幡宮ニ 此時阿武郡

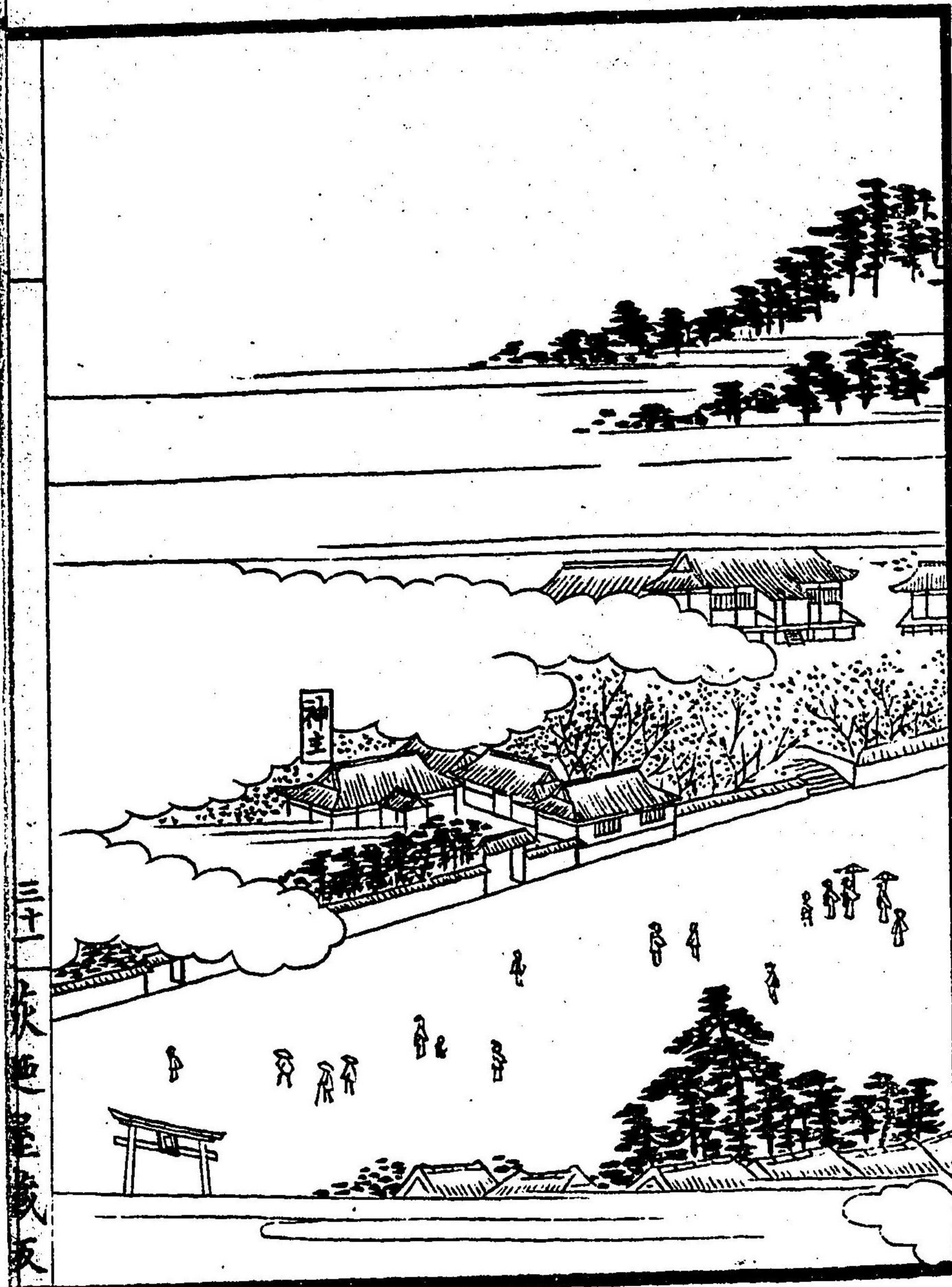
を分つて十八郷とあり

林東西 得佐 奈古 高佐 吉部 紫福
地福 須佐 生雲 福井 川島 三見

大井 福田 加幸
小川 宇生賀

みお分社を勸請せりとも椿郷ハ本宮と

るよりして太宮司伊集宗吉郡中の宗司として於當所春
秋兩度諸郷の神司を集り國家安全の御祈禱を奉りて二



三十一
大
道
屋
敷
反

椿八幡宮



新
屋
敷
版

夜三日と終れりといひ傳へり夫より世々連綿して萬治
年中 泰巖公の御時御修營を加へさせむひて本殿樓閣
弥備りたりまゝ神明宮御産土神によりて當社をもちて御
遙拜所となせりめり是當社の規模とるせり

まゝ云當祇園社の往昔人皇九代 開化天皇十五年の春南
山の嵩に夜あり瑞光ありてやむとまきまゝ村里のまじ怖驚き
て直に是を願ふ許し官吏即て山よゆきてこれハ巖上り老
翁現れむい宣むりせ々々ハ我ハ天の下國內をとりて守護
とる素盞鳴尊之此地山海の景色殊勝して尤邊要の樞地

たり我當地に垂跡し永く万民を撫育すべしといひて山の内
より入る夫より晝夜の差別をいひ兼祠を営みて幣帛
を奉り尊敬怠惰をりたりまゝ云延喜の御門の御代逆襲
の皇子故ありて當國當所は左近むひり時此山は昔より生茂
ありて大椿樹周圍七圍に餘さるありてを切らせむひり
れハ即神の崇りしとありて夢中し告て宣く我ハ此地を守
る所の神あり大樹ハ山をたもつ精神ありやゝ當國當郡ハ
殊に名木の生ふる所されハ今より後此山は芥を入ることを
禁はと告むひぬ皇子驚きむひ即て宮を麓より祇園天

皇と稱し奉りて尊かしてみ孫まのく上崇め奉り後當社

を分ちて大津郡瀬戸崎へ勸請せらるのあり 今祇園社是也 さて當所

を椿とつくりハ此時より名つけらるるといひ傳ふ又當郡ハ大樹

古木一名譽らるること古書にも多く載せられハさもあるへ中昔

のころとれとおひひゆるをくに引たり

新編六

きつちるに武の郡の松板ハ屋とくもさあさうめや 光俊

文治五年二月卅日壬寅長門國阿武郡者為没官領内之間

為勸賞雖賜土肥彌太郎遠平為御造作拙取可去進地頭職

之由依有勅定可退出之由被仰云々

三

逆髪皇子供奉の隸人として武春守永清章實利定香信方ハ

といろ家ありと云今守永信方の兩家連綿として子孫繁昌を

當社御祭禮ハ九月十五日より十六日までといハ其式嚴重として

御名代且流鏑馬献馬の式よりくるまを春日社の例に同一市

中ハせとより近郷近村の貴賤羣集夜渡より日晴に継きて

いづく賑をへり

古棟札文左に録を

裏に伊東入次助とあり

奉葺立長門國阿武郡椿郷多八幡宮御室殿

右旨趣者天下泰平國家豐饒殊者大禮那源正頼同

御息廣頼御武運長久御家内安栄別者御子孫繁昌

如意圓滿矣高圓普請方裁判之當郷守護越後守隆

家普請奉行上村伊豆守盛家大工塩川万六左衛門尉

御當家御再興棟札

奉重造營八幡宮 万治二己亥曆九月吉祥日

造立大工引頭七左衛門

防長國主侍從大膳大夫從四位下大江綱廣朝臣

執權榎本遠江守藤原就時

番匠主頭藤井喜大夫就定

造立奉行國重九郎兵衛尉就久

神主正六位上守信濃大夫守藤原定久

同吏 八谷半左衛門少尉

古證文寫

奉重身遊榎本内廣瀬控現
中及地若部

中至塚 東照殿側南邊御所
西及地若部中及地若部

右件控現中及地若部乃及中及地若

中及地若部乃及中及地若

以明甲午

佐伯友五郎

奉重身遊榎本内廣瀬控現
中及地若部

り併

元亨元年
三月十日

堀江宮

宗行 宗行武野橋々

ハ情まゝ地々

まゝ御まゝに御座りし人

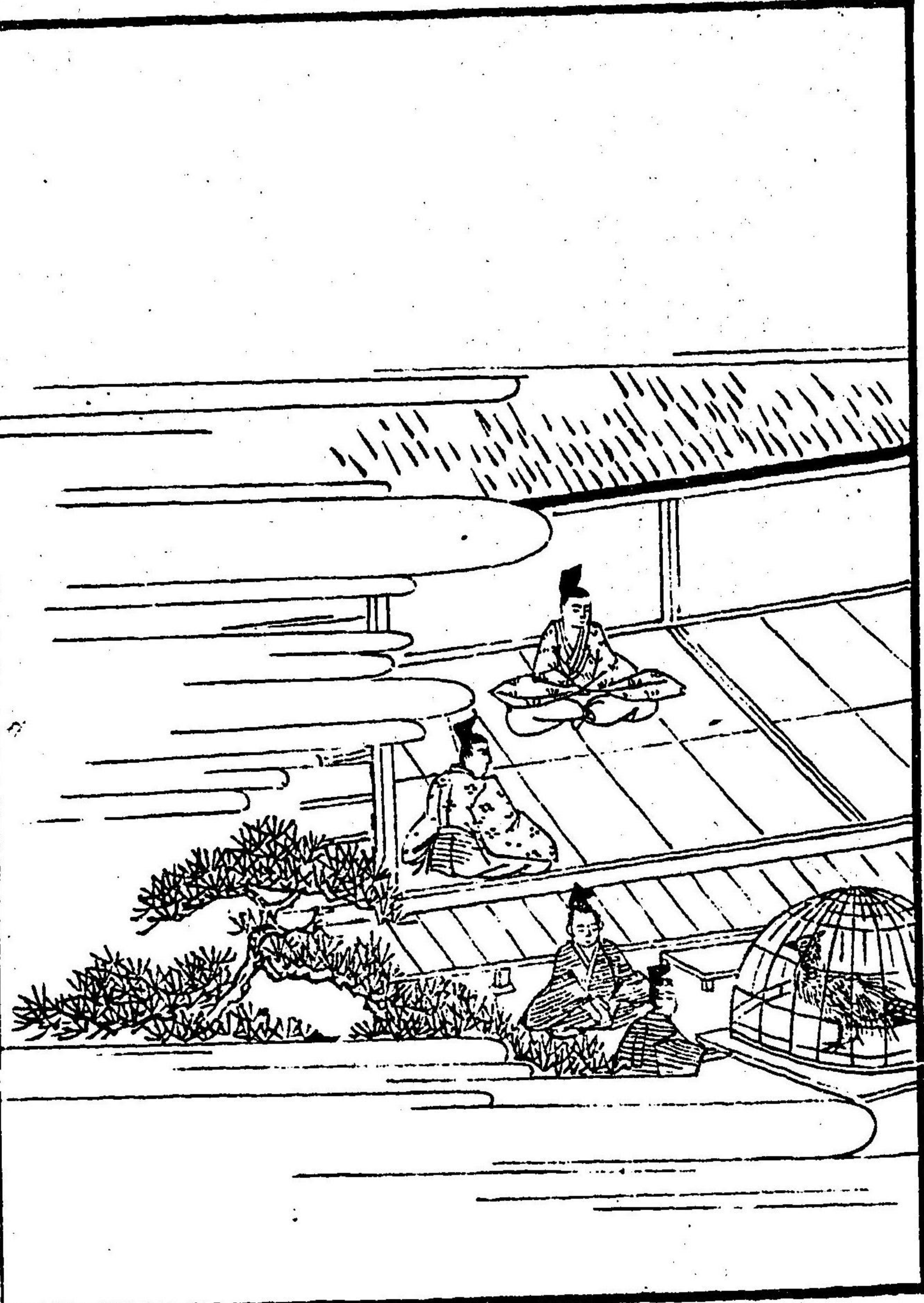
元亨元年 四月
ハ月々

三

まゝ當社舊記より曰昔人皇三十七代 孝徳天皇の御宇大化
 五年正月穴戸の國司草壁連醜經椿那の南谷麻山より白雉を
 獲て陛下に獻を即白雉ハ祥瑞の物なりとて年号を改めら
 せ國司より賞として三年の調役を免されたり此麻山とい
 へる山當社南谷よりありていと大山なり かく傳記よりありと白雉の
 出たる麻山の美祿郡なり
 麻山よりへり引書左に見ゆ因よ云安永八年當郡河内村より白雉を
 出は是ハ引田方より役河へ納めたり或書よ云り

名所雜記
 麻山ハ赤村 阿加
 武良といふ河よりあり
 孝徳天皇の御宇此山より白雉出たり是則朝家白雉
 の瑞有し最初より白雉ハ王者仁聖の時ハ則見ると云

美禰郡
麻山より
獲るる所の
白雉を
國守へ
献る國



三十六
西
屋
成
坂

美禰郡

國家の祥瑞あり故二年号を白雉と改め長門國三年の調役をゆるし國司に大山といふ位階を授せらばとあり鷹を穴戸の境に放つことを禁まるとあり白雉を復此山へ放ちて其生を遂しめむるあり瑞物の中より羽毛の類ハ山野よりれちてその生を遂しめむふことハ今條よりんえたり

日本紀孝德

天萬豐日天皇白雉元年春二月庚午朔戊寅穴戸國司草壁連醜經獻白雉曰國造首之同族贄正月九日於麻山獲焉於是問諸百濟君曰後漢明帝永平十一年白雉在所見焉云云

中畧甲申朝廷隊仗如元會儀左右大臣百官人等為四列於紫門外以粟田臣飯虫等四人使執雉輿而在前去左右大臣乃率百官及百濟君豐璋其弟塞城忠勝高麗侍醫毛治新羅待學士等而至中庭使三國公麻呂猪名公高見三輪君麿穗紀臣乎麻呂岐太四人代執雉輿而進殿前時左右大臣就執輿前頭伊勢王三國公麻呂倉臣小屎執輿後頭置於御座之前天皇即召皇太子共執而觀皇太子退而再拜使巨勢大臣奉賀曰公卿百官人等奉賀陛下以清平德治天下之故爰有白雉自西方出乃是陛下及至千秋萬歲云云中畧又詔而

日四方諸國郡等由天委付之故朕慈臨而御寓今我親禱祖
之所知穴戸國中有此嘉瑞所以大赦天下改元白雉仍禁放
鷹於穴戸境賜公卿大夫以下至于令吏各賜有差於是褒美
國司草壁連醜經授大山并大給各有差復穴戸三年調役云
下畧

修多羅山永福寺 圓覺院と号し椿社の封内ありて當社
の別當あり當寺ハ萩古寺の一員にて満願寺ニ属し開山
を阿闍梨知覺宥快中興ハ法印快英玄長といふ
本尊不動明王ハ行基并の作りて并ニ文珠并を安ん

相傳ふむく延喜年中逆髮皇子當地へ遷幸せられて法
心とありむひ一字の精舎をりて念護佛不動文珠
の二尊を安んて世塵をさけむ折々浮雲の僧沙門知
覺阿闍梨此草菴を訪らひて浮世のさうも互にと語りひ
終ニ一字を建てる一むひとそ夫より久く廢墟にて
就中天台ノ宗風を轉けんと天正年間真言沙門快英法印
来りて再興せり是より椿社の別當と志すハ則鎌倉鶴
カ岡永福寺を模擬せらむのありとそ

湖景山西福寺 同所より東へ少一行てあり浄土宗にて

龍昌院に属し本尊阿彌陀如来ハ聖徳太子の作開山の念
蓮社專譽良都和尚にて承應年中の建立あり本堂より
掲る所の扁額ハ寶鏡寺の宮の真跡ありて法皇の御冠櫓
扇まゝハ中将姫蓮糸織の曼陀羅ハともに寶庫に藏む
萬年山福昌寺 同所より又東よりあり禪宗ありて京都妙心
寺に属し本尊ハ聖觀世音并ありて開山を劔舟和尚といふ
相傳ふ山田村川上の農民等打擧りて建立せし寺刹といふ
いろある所謂ありけん寺記廢きて詳くありて項ハ九天貞
の間ありとそいへり

茶臼山 同所上より聳へたる山をいふ往昔大内家旗下岩成
豊後守城跡といひ傳へり今猶山頭に礎石并筒などところか
しこに残りてありき絶頂の大松一株ハ御打入の已降山
の姿見らめ甲斐よき為として祖式宇兵衛某にて裁させむ
所ありと或書いへり

八江款名所圖画二之卷終

新編
文庫
藏書

